

りそな

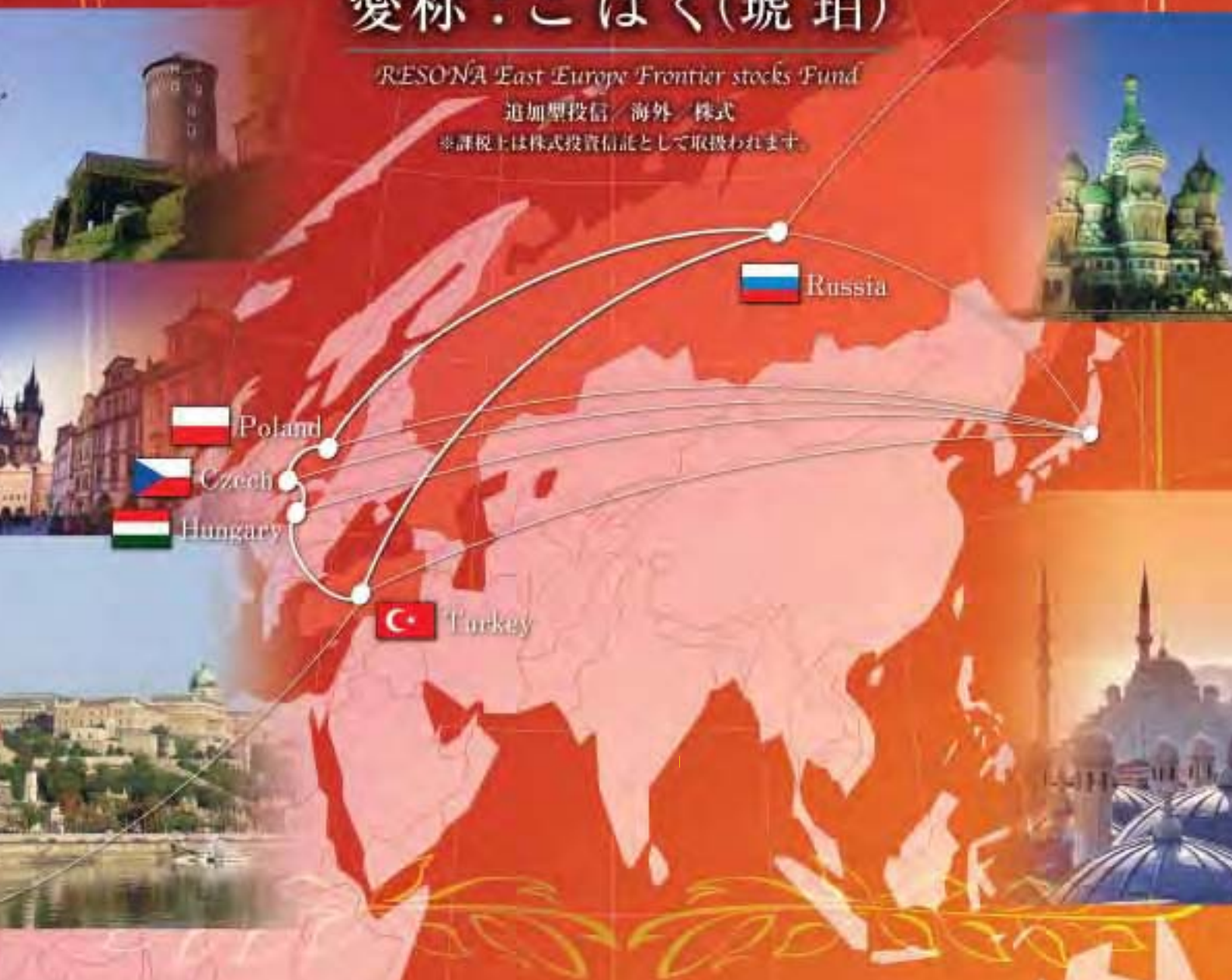
東欧フロンティア株式ファンド

愛称：こはく(琥珀)

RESONA East Europe Frontier stocks Fund

追加型投信 / 海外 / 株式

※課税上は株式投資信託として取扱われます。



本書は金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社



A member of
Deutsche Bank Group



この冊子の前半部分は「りそな 東欧フロンティア株式ファンド」の投資信託説明書（交付目論見書）、後半部分は「りそな 東欧フロンティア株式ファンド」の投資信託説明書（請求目論見書）です。

りそな

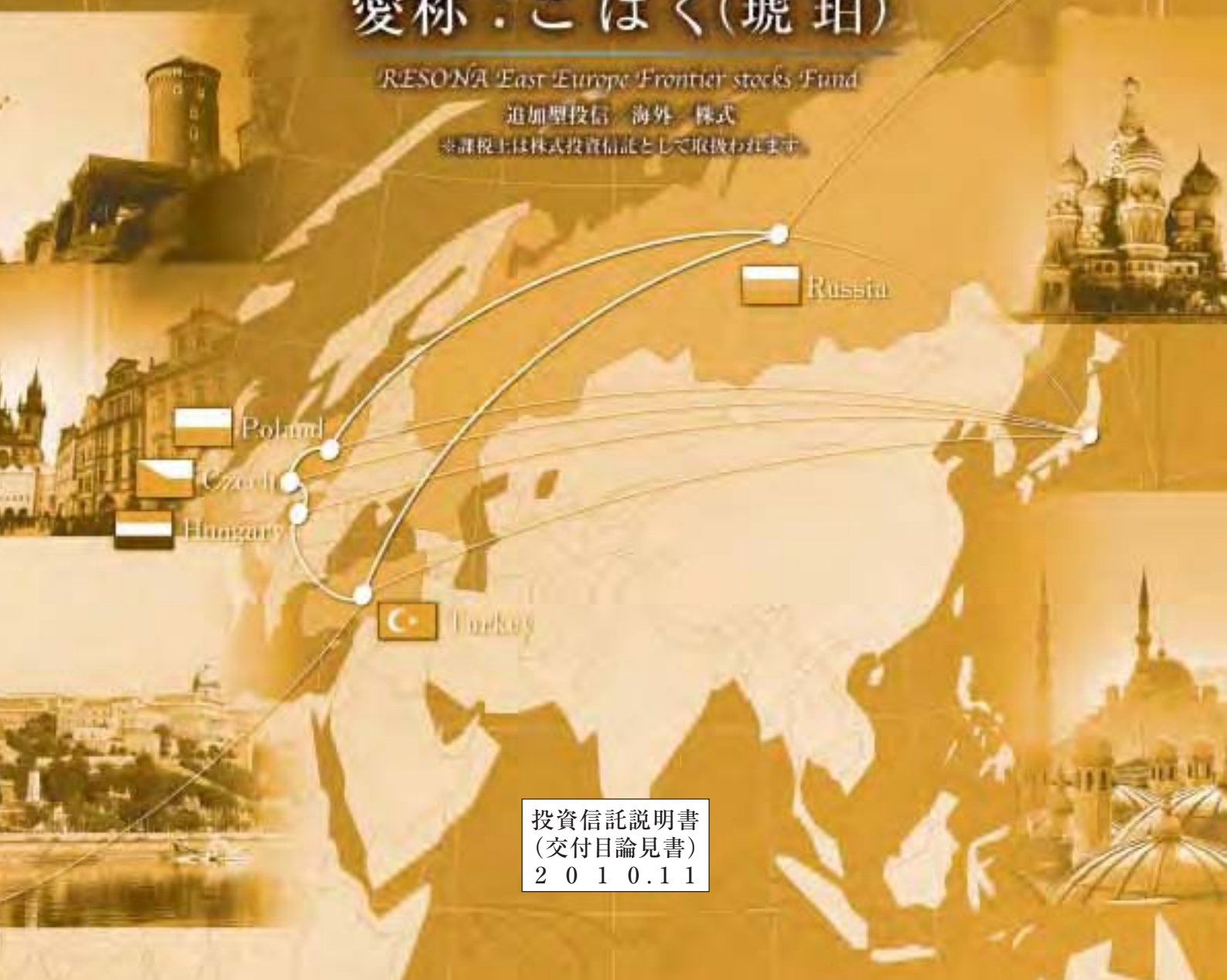
東欧フロンティア株式ファンド

愛称：こはく(琥珀)

RESONA East Europe Frontier stocks Fund

追加型投信 海外 株式

※課税上は株式投資信託として取扱われます。



投資信託説明書
(交付目論見書)
201011

本書は金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社



A member of
Deutsche Bank Group



1. 本書により行うりそな 東欧フロンティア株式ファンド（以下「ファンド」といいます。）の受益権の募集については、委託会社は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成22年5月18日に関東財務局長に提出しており、平成22年5月19日にその効力が発生しております。
2. 当該有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の内容を記載した投資信託説明書（請求目論見書）は、投資家から販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。なお、請求を行った場合には、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。
3. 当ファンドの受益権の価額は、同ファンドに組入れられる有価証券等の値動きのほか、為替変動による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資家の皆様に帰属いたします。したがって、当ファンドは元金が保証されているものではありません。

【金融商品の販売等に関する法律に係る重要事項】

当ファンドは、主に外国の株式を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化を含む信用状況等の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、為替の変動により損失を被ることがあります。

発 行 者 名：ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
代表者の役職氏名：代表取締役社長 関崎 司
本店の所在の場所：東京都千代田区永田町二丁目11番1号 山王パークタワー

有価証券届出書の写しを縦覧に供する場所：該当事項はありません。

下記の事項は、当ファンドをお申込みされるご投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項及び投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

記

■当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格の下落や、組入株式の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、当ファンドは主に外国の株式を実質的な投資対象としますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、ご投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「リスクと留意点」をご覧ください。

■当ファンドに係る手数料等について

◆申込手数料

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.15%（税抜3.0%）以内で販売会社が定める率を乗じて得た額とします。

※詳しくは販売会社もしくは申込手数料を記載した書面にてご確認ください。

◆換金（解約）手数料

当ファンドには、換金（解約）手数料はありません。

◆信託財産留保額

ありません。

◆信託報酬

ファンドの純資産総額に年率1.974%（税抜1.88%）を乗じて得た額とします。

◆その他の費用

- ・ 信託事務の処理に要する諸費用（監査費用、法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用等を含みます。）
- ・ 有価証券売買時の売買委託手数料
- ・ 資産を外国で保管する場合の費用 等

上記その他の費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。

なお、当該費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

また、当該手数料等の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「費用・税金等」をご覧ください。

以上



ファンドの特徴……………

- ファンドの特色
- 具体的な投資プロセス
- 基本的性格
- 参考指数について
- 主な投資制限
- 収益分配方針

ファンド情報の入手方法……………

リスクと留意点……………

申込(販売)手続等……………

- 取得申込みの流れ

換金(解約)手続等……………

- 換金(解約)の流れ

費用・税金等……………

- その他の費用
- 課税上の取扱い

18 17 **16** 14 **14** 12 **12** **10** **9** 8 7 7 5 4 1 **1**

Contents

ファンドの仕組み・運用体制……………

- ファンドの仕組みと関係法人
- 委託会社の概要等
- 運用体制
- 投資リスクに対する管理体制

その他……………

- ファンド管理の概要および
運営等に関する事項について
- 国内投資信託受益証券の形態等
- 発行(売出)価額の総額
- 申込期間
- 振替機関に関する事項
- その他
- 国内投資信託受益証券事務の概要
- 運用状況
- 財務ハイライト情報
- 「ファンドの詳細情報」の項目

41 40 38 33 31 31 31 31 31 31 27 **27** 25 23 22 20 **20**



商品概要



申込受け	収益分配	決算日	信託期間	主なリスク	主な投資制限	主な投資対象	運用の基本方針	基本的性格	ファンド名
原則として、販売会社の営業日に取得申込みを受付けます。ただし、バンクフルト証券取引所の休業日またはバンクフルトの銀行の休業日に該当する日を除きます。	※分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。	毎年2回、原則として毎年2月10日および8月10日とします。当該日が休業日の場合は翌営業日とします。	信託設定日(平成18年5月10日)から無期限とします。	<ul style="list-style-type: none"> ○株価変動リスク ○為替変動リスク ○カウンターリスク ○信用リスク ○流動性リスク ※詳しくは後述の「リスクと留意点」をご参照ください。	<ul style="list-style-type: none"> ●株式への実質投資割合には制限を設けません。 ●外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 	東欧株式マザーファンドを通じて、チェコ、トルコ、ハンガリー、ポーランド、ロシアのいずれかで上場または取引されている株式を主要投資対象とします。	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	追加型投信／海外／株式	りそな東欧フロンティア株式ファンド(愛称:はく(琥珀))

信託報酬等	解約代金支払日	信託財産留保額	解約価額	解約単位	解約受け	申込手数料	申込価額	申込単位
この他に、純資産総額に対して年率0.10%を上限として諸費用等(監査費用・法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用等を含みます。)が信託財産から差し引かれます。また、信託財産における組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用等についても、別途信託財産が負担します。	原則として、解約請求受付日から起算して7営業日目から販売会社においてお支払いいたします。	ありません。	解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。	販売会社が定める単位とします。	原則として、販売会社の営業日に解約請求を受付けます。ただし、バンクフルト証券取引所の休業日またはバンクフルトの銀行の休業日に該当する日を除きます。	取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.15%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。	取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。	販売会社が定める単位とします。



ファンドの 特徴

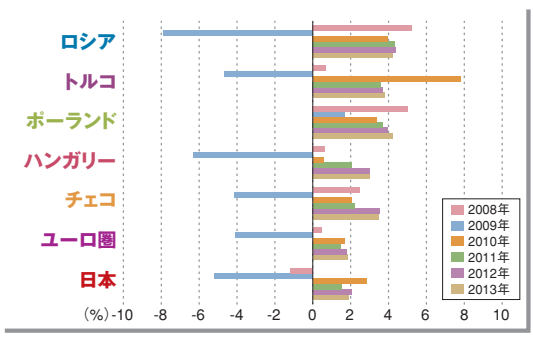
ファンドの特色

マザーファンドへの投資を通じて、ヨーロッパの中でも、特に高い経済成長が期待されているロシア・トルコ・ポーランド・ハンガリー・チェコを主要投資対象国[※]とし、運用チームが選定した企業に投資します。

● 主要投資対象国の今後のGDP成長率の見通しは、先進国を大幅に上回っています。

※ 主要投資対象国に加え、ウクライナ、エストニア、オーストリア、カザフスタン、グルジア、スロバキア、ブルガリア、ラトビア、リトニア、ルーマニア（以下「その他投資対象国」といいます。）にも投資する場合があります。また、主要投資対象国およびその他投資対象国以外の国にも、DWSが美質的に主要投資対象国およびその他投資対象国に該当すると判断する場合には、投資することがあります。

先進国を上回る実質GDP成長率



(出所) IMF World Economic Outlook Database, October 2010
 ※ポーランドは2009年から予測。ロシア、トルコ、ハンガリー、チェコ、日本は2010年から予測。
 ※データは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

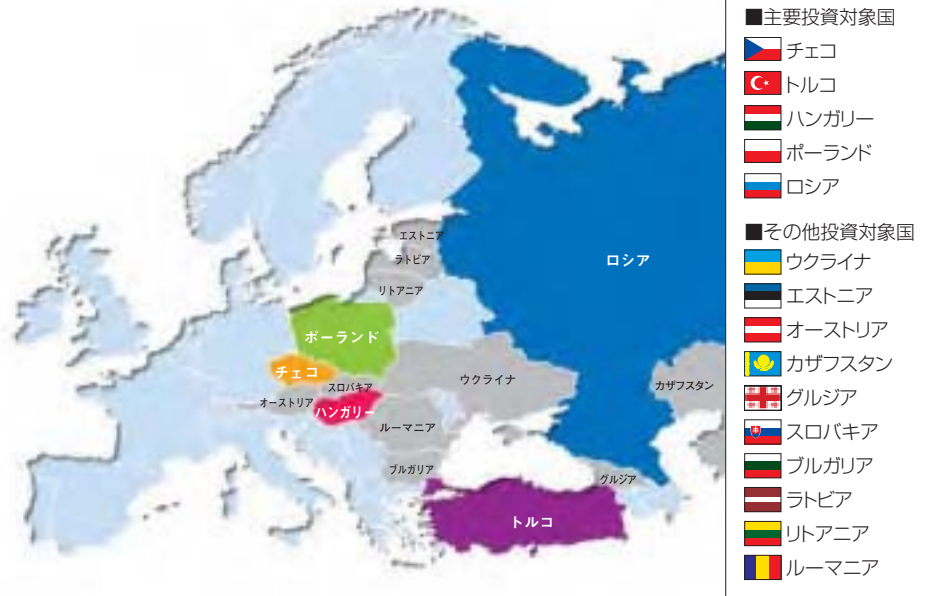
新興国市場は、先進諸国の証券市場に比べカントリーリスクが高くなります。
 ※一般的に新興国とは、国際通貨基金（IMF）、世界銀行、国際金融公社（IFC）等が先進国に定めていないすべての国を指します。



GDP
 Gross Domestic Productの頭文字をとってGDPといいます。一定期間内に国内で生産したすべての財・サービスの総額を付加価値で表したものです。この指数により国内の景気変動や経済成長の程度がわかります。また各国の経済活動の大きさを比較する場合に利用されます。

マザーファンド
 投資家が取得するファンドを「ベビーファンド」といい、ベビーファンドの資金をまとめて運用するためのファンドを「マザーファンド」といいます。

投資対象国



【投資対象】

マザーファンドの投資対象は、主要投資対象国およびその他投資対象国のいずれかで上場または取引されている株式および預託証券等とします。あるいは、生産、製造、販売、サービスの提供の大半が主要投資対象国およびその他投資対象国のいずれかで行われている企業の株式および預託証券等とします。(生産、製造、販売、サービスの提供の大半が主要投資対象国およびその他投資対象国のいずれかで行われている企業の株式および預託証券等の中には、米国、英国、スイス、アイスランド、ルクセンブルグ、ドイツ等で上場または取引されている株式および預託証券等も含まれます。)

ロシア株式への投資にあたっての留意点

ロシア株式への直接投資にあたっては、決済用口座として、有価証券を保護預りする保管機関に証券口座(以下「メインアカウント」といいます。)を開設する必要があります。メインアカウントの開設に際しては、ロシアの法規制により、法人格を有する者のみ開設可能という条件があり、ファンド名義での口座開設ができません。したがって、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社名義でメインアカウントを開設し、当ファンド名義の保護預り口座をメインアカウントの下に開設します。また、次の事項について制限等が課せられますので、ご留意ください。なお、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、当ファンドの関係法人である「株式会社りそな銀行(受託会社)」の再信託受託会社です。

- ◆ 石油等の資源株については、外国人保有株数制限が課されており、この制限は、メインアカウント単位で計算されますので、当ファンド単独では上限を超過していない場合でも、制限を受けることがあります。
- ◆ 株券の発行が行われず、原則として株主名簿によって株主としての地位が確認されます。
- ◆ 株式の売買において資金決済と証券決済を別々に行うため、決済の低い効率性が考えられます。

(2010年9月末現在)



預託証券

ある国の発行会社の株式を海外でも流通させるために、その会社の株式を銀行などに預託し、その代替として海外で発行される証券のことをいいます。預託証券(DR)は、株式と同様に証券取引所などで取引され、流通される市場や形態によって多様です。

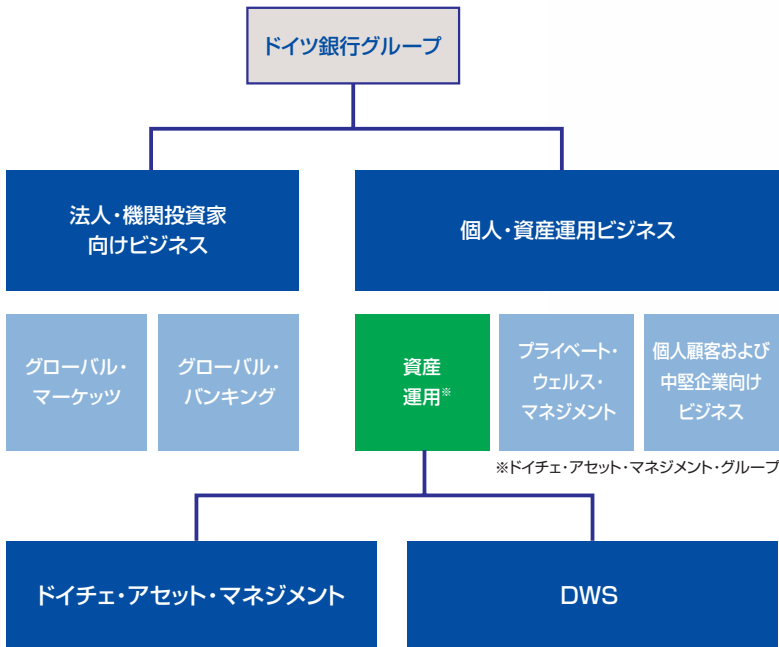


2

マザーファンドに係る運用指図に関する権限を、DWSに委託します。

● DWSは、ドイツ・アセット・マネジメント・グループのリテールビジネスを担う投資信託会社グループです。(後記「DWSの概要」をご参照ください。)

● 当ファンドは、委託会社が、DWSの一員であるDWSインベストメントGmbHにマザーファンドの運用の委託を行う国内公募投資信託です。



2010年9月末現在

DWSの概要

- ◆ 設立 .. 1956年(昭和31年)
- ◆ 資本金* .. 115億ユーロ
- ◆ 従業員* .. ドイツ国内約1,000人
グローバル**約1,400人
- ◆ 運用ファンド数* .. ヨーロッパ内約580本
グローバル**約850本
- ◆ 運用資産残高 .. ドイツ国内約1,421億ユーロ**4
グローバル約2,840億ユーロ**5
- ◆ 市場シェア** .. 24.2%

■ DWS(ディー・タブリユー・エス)とは、有価証券の専門家³を意味するドイツ語Die Wertpapier Spezialistenを略したものです。

- ※1 2009年12月末現在
- ※2 ドイツ国内を含む。
- ※3 ヨーロッパ内を含む。
- ※4 DWSを含めたドイツ銀行グループの運用資産残高ベース(外国籍ファンドを含む)、2010年5月末現在、出所…ドイツ投資信託協会(BVI)
- ※5 ドイツ国内を含む2010年3月末現在

前記設立、資本金はDWSの中核会社であるDWSインベストメントGmbHに関するものです。



信託財産

ファンドにおいて運用される株式や債券などの有価証券や現金などの財産をいいます。信託財産は、受託会社により保管・管理されています。

為替ヘッジ

為替変動に係るリスクを回避するために、通貨の先物取引やオプション取引を利用して、将来のある時点で事前に決められた一定の交換レートで外貨を売り、円を買う取引を行うことなどをいいます。

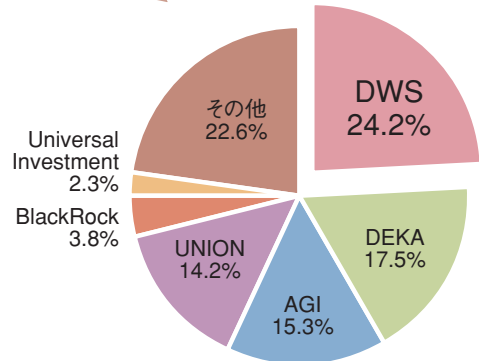
外貨建資産

ファンドに組入れている外貨建の株式や債券などを合計した資産を外貨建資産といます。

※「実質外貨建資産」とは、ファンドに属する外貨建資産とマザーファンドに属する外貨建資産のうちファンドに属するとみなした額（ファンドに属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額）との合計額をいいます。

3 実質外貨建資産※については、原則として為替ヘッジを行いません。

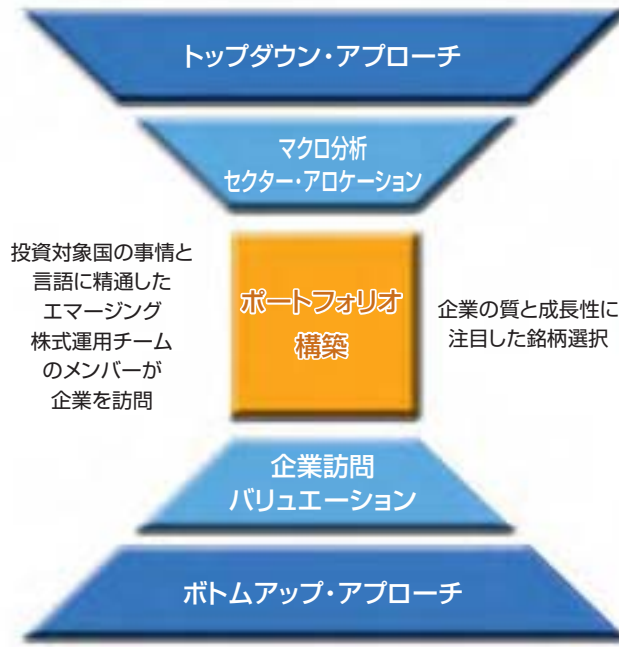
ドイツの投資信託運用会社
運用資産残高でDWSが首位



DWSを含めたドイツ銀行グループの運用資産残高ベース
(外国籍ファンドを含む)
2010年5月末現在
出所:ドイツ投資信託協会 (BVI)

具体的な投資プロセス

株式への投資にあたっては、収益性・成長性などを総合的に勘案して選択した銘柄に投資します。
トップダウン・アプローチによる個別配分の決定およびボトムアップ・アプローチによる個別銘柄の選択を行い、ポートフォリオを構築します。



- 綿密な企業調査に基づいたアクティブ運用を行います。
- 企業への取材などを通じて独自の視点で情報を収集・分析し、投資判断を行います。
- 個々の銘柄選択においては、企業の質と競争力に着目し、長期的な成長性を重視します。
- キャッシュフローに基づく利益率に注目し、継続的にバリュエーションをモニターします。

(注1) 前記投資プロセスは、マザーファンドに関するものです。

(注2) 前記は本書作成時点のものであり、今後変更になることがあります。

※円況動向および資金動向等によっては、前記のような運用ができない場合があります。



ポートフォリオ

ファンド等の運用資産全体や、株・債券等の有価証券の銘柄群などを指します。

純資産総額

ファンドに組入れられている株式や公社債などを時価で評価し、株式や公社債などから得られる配当金や利息などの収入を加えた資産の総額から、ファンドの運用に必要な費用などを差し引いた金額のことです。



当ファンドの商品分類および属性区分は次の通りです。

〈商品分類表〉

単体型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立区分	補足分類
単体型投信	国内	株式	MMF	インデックス型
		債券		
	海外	不動産投信	MRF	特殊型
追加型投信	内外	その他資産() 資産複合	ETF	

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

〈商品分類の定義について〉

社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づく定義は以下の通りです。

1. 「単体型投信・追加型投信」の区分のうち、「追加型投信」とは、一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
2. 「投資対象地域」の区分のうち、「海外」とは、目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
3. 「投資対象資産(収益の源泉)」の区分のうち、「株式」とは、目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

なお、上記は当ファンドに該当する分類について記載したものです。上記以外の商品分類の定義については、社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)をご参照ください。

基本的性格



ボトムアップ・アプローチ

個別銘柄に対する調査・分析に基づいて投資銘柄を選別する運用手法をいいます。

トップダウン・アプローチ

経済情勢や産業動向などマクロ的な投資環境の予測・分析などにより、投資の資産配分や業種別配分を決定した上で投資銘柄を選別する運用手法をいいます。

〈属性区分表〉

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ	対象インデックス	特殊型
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル				ブル・ ベア型
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性()	年2回	日本	ファミリー ファンド	あり ()	日経225	条件付 運用型
不動産投信	年4回	北米				
その他資産 (投資信託証券(株式))	年6回 (隔月)	欧州			TOPIX	
資産複合() 資産配分固定型 資産配分変更型	年12回 (毎月)	アジア				ロング・ ショート型/ 絶対収益追求型
	年12回 (毎月)	オセアニア				
	日々	中南米	ファンド・ オブ・ ファンズ	なし		
	日々	アフリカ			その他 ()	
	その他 ()	中近東(中東) エマージング				その他 ()

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

〈属性区分の定義について〉

社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づく定義は以下の通りです。

1. 「投資対象資産」の区分のうち、「その他資産」とは、目論見書または投資信託約款において、株式、債券および不動産投信(リート)以外の資産を主要投資対象とする旨の記載があるものをいいます。なお、当ファンドは、マザーファンド(投資信託証券)を通じて実質的に株式に投資するため、商品分類表の「投資対象資産(収益の源泉)」においては「株式」に分類されます。
2. 「決算頻度」の区分のうち、「年2回」とは、目論見書または投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。
3. 「投資対象地域」の区分のうち、「欧州」とは、目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
4. 「投資形態」の区分のうち、「ファミリーファンド」とは、目論見書または投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいいます。
5. 「為替ヘッジ」の区分のうち、「なし」とは、目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

なお、上記は当ファンドに該当する属性について記載したものです。上記以外の属性区分の定義については、社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)をご参照ください。



参考指数について

MSCI E M ヨーロッパ 10/40 (税引後配当込み 円換算ベース)*を参考指数とします。

当ファンドは参考指数に対して一定の投資成果をあげることがを目標とするのではなく、実際の運用成果は参考指数と乖離する場合があります。なお、参考指数は委託会社の判断により予告なく変更される場合があります。

*MSCI E M ヨーロッパ 10/40 (税引後配当込み 円換算ベース)は、MSCI E M ヨーロッパ 10/40 (税引後配当込み 米ドルベース)をもちに、委託会社が円換算しております。MSCI E M ヨーロッパ 10/40 に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI インク (以下「MSCI」とします。)に帰属します。また、MSCIは同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しております。

主な投資制限

〈信託約款で定める主な投資制限〉

① 株式への投資制限

株式への実質投資割合*には制限を設けません。

*実質投資割合とは、ファンドに属する当該資産とマザーファンドに属する当該資産のうちファンドに属するとみなした額(ファンドに属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額)をいいます。この合計額の信託財産の純資産総額に占める割合をいいます。以下同様。

② 投資信託証券への投資制限

投資信託証券 (マザーファンドの受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

③ 同一銘柄の株式等への投資制限

a. 同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。

b. 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

④ 同一銘柄の転換社債等への投資制限

同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの (以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

⑤ 外貨建資産への投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

(注)マザーファンドの投資制限については、当ファンドの実質的に同一です。
*詳しくは「信託約款」をご参照ください。

〈法令で定める投資制限〉

① 同一法人の発行する株式への投資制限 (投資信託及び投資法人に関する法律 (以下「投信法」といいます。) 第9条) 委託会社は、同一の法人の発行する株式について、次の

a. の数が、b. の数を超えることとなる場合には、当該株式を信託財産で取得することを委託会社に指図しないものとします。

a. 委託会社が運用の指図を行うすべてのファンドで保有する当該株式に係る議決権の総数

b. 当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数

② デリバティブ取引に係る投資制限 (金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号)

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融

収益分配方針

商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを委託会社に指図しないものとします。

毎決算時（原則として毎年2月18日および8月18日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。

- ① 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ② 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。
- ③ 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

決算日（イメージ図）

★たとえば収益分配金を受取る方は…

（例）支払日から5営業日目の場合で…

●決算日が営業日の場合



●決算日が営業日で休業日をはさむ場合



●決算日にあたる日が休業日の場合



※決算日にあたる日が休業日のときは、翌営業日を決算日とします。

※「一般コース」を選択した場合、収益分配金は原則として決算日から起算して5営業日までに支払いを開始します。

上記はあくまでも参考例であり、実際の支払日は販売会社により異なります。詳細については販売会社にお問合せください。

※「自動けいぞく投資コース」を選択した場合、収益分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料にて全額再投資されます。



投信博士の
用語解説

ファンド情報 の入手方法

基準価額

原則として、委託会社の営業日に日々算出されます。

a. 委託会社

・ ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>
・ フリーダイヤル 012014421785

(受付時間 営業日の午前9時から午後5時まで)

b. 販売会社

・ 販売会社の本・支店、営業所等の窓口で問合せることができます。

c. 日本経済新聞

・ 原則として、日本経済新聞(朝刊)の「オープン基準価格」欄に、前日付の基準価額が掲載されます。(略称(愛称) : こほく)

受益者への定期報告

委託会社は、法令に基づき、当ファンドの計算期間の末日毎および信託終了時に期中の運用経過、組入有価証券の内容及び有価証券の売買状況などを記載した「運用報告書」を作成し、これを販売会社を通じて当該信託財産に係る知られたる受益者に対して交付します。

受益者へのお知らせ

重大な信託約款の変更時等、委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

リスク

投資の世界では、予想されるリターン(収益)のブレ(変動)の大きさを指します。「リスクが高い」ということは、当初に期待したリターン(収益)にならない可能性が高いということです。期待に反して大きな損失を被る可能性もあります。リスクとリターンは一般的に比例の関係にあり、高いリターン(収益)が期待できる商品はリスク(変動性)も高くなります。

受益者

ファンドを取得した投資者のことです。受益者は保有口数に応じて収益分配金や償還金に対する請求権、解約請求権などの権利を有しています。

基準価額

純資産総額を計算日における受益権の総口数で割ったものです。なお、便宜上、1万口単位に換算した価額で表示されることがあります。

リスクと 留意点

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、株式などの値動きのある証券（外貨建資産には、この他に為替変動リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。当ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属することとなります。

当ファンドの基準価額は、主に以下のリスクにより変動し、損失を生じるおそれがあります。

株価変動リスク

当ファンドは主に株式に投資しますので、ファンドの基準価額は組入れている株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は政治経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。また、株式の発行者に経営不振もしくは債務不履行等が生じた場合、またはそれらが予想される局

面となった場合には、当該株式の価格は大きく下落することがあります（価格がゼロになることもあります）。このような場合には、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

為替変動リスク

当ファンドは主に外国の株式に投資しますので、ファンドの基準価額は、当該外貨建資産の通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。為替変動リスクとは、外国為替相場の変動により外貨建資産の価格が変動するリスクをいいます。外貨建資産の価格は、通常、当該外国通貨に対して円安になれば上昇しますが、円高になれば下落します。したがって、外貨建資産の価格が下落した場合には、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

為替の動き（イメージ図）



カントリーリスク

発行国の政治、経済、社会情勢の変化により、金融・証券市場が混乱し、証券価格が大きく変動する可能性があります。またエマージング・マーケット（新興国市場）には、一般に先進諸国の証券市場に比べ、市場規模、証券取引量が小さく、法制度（証券市場の法制度、政府の規制、税制、外国への送金規制等）やインフラストラクチャーが未発達であり、低い流動性、高い価格変動性、ならびに決済の低い効率性が考えられます。なお、企業情報の開示等の基準が先進諸国と異なることから、投資判断に際して正確な情報を十分確保で



円安

日本円と外国通貨とを交換する比率（＝為替レート）は常に変化するものです。日本円の価値が外国通貨より低くなることを円安といいます。たとえば、昨日1ドル115円で、今日1ドル117円に変化するような状況のことです。

債務不履行

一般に公社債などの発行者が、事前に約束した利払いを遅延したり、元本の償還が不能になることをいいます。デフォルトともいいます。



きないことがあります。このように、エマーシング・マーケットは先進諸国の証券市場に比べカントリーリスクが高く、これによりファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

信用リスク

投資した株式について、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化を含む信用状況等の悪化は価格下落要因のひとつであり、これによりファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

流動性リスク

急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できないことがあります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

ファンドの資金流出に伴うリスク

当ファンドの追加設定（ファンドへの資金流入）および一部解約（ファンドからの資金流出）による資金の流出に伴い、基準価額が影響を受ける場合があります。大量の追加設定があった場合、マザーファンドにおいても原則として迅速に有価証券の組入れを行います。買付け予定銘柄によっては流動性などの観点から買付け終了までに時間がかかることがあります。同様に大量の解約があった場合にも解約資金を手当てするため保有証券を大量に売却しなければならぬことがあります。その際には、市況動向や取引量等の状況によって、基準価額が大きく変動する可能性があります。また、マザーファンドを投資対象とする他のベビーフンドの追加設定・一部解約等により、当該マザーファンドにおいて売買が生じた場合等には、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

その他の留意点

- 1 委託会社は、証券取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。）等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、取得申込み・解約請求の受け付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込み・解約請求の受け付けを取り消すことができます。
- 2 当ファンドの資産規模によっては、運用の基本方針に基づく運用が効率的にできない場合があります。その場合には、適切な資産規模の場合と比較して収益性が劣る可能性があります。
- 3 当ファンドは、受益権の口数が50億口を下回ることをなつた場合等に必要な手続き等を経て繰上償還されることがあります。
- 4 資金動向、市況動向その他の要因により、運用の基本方針にしたがった運用ができない場合があります。
- 5 当ファンドは、次の日は取得申込みおよび解約請求の受け付けを行いません。
 - ・ フランクフルト証券取引所の休業日またはフランクフルトの銀行の休業日
- 6 法令・税制・会計制度等は今後変更される可能性もあります。
- 7 投資対象国の政府当局による、海外からの投資規制や課徴的な税制、海外からの送金規制などの様々な規制の導入や政策変更等により、投資対象国の証券への投資が悪影響を被る可能性があります。

円高

日本円と外国通貨とを交換する比率（＝為替レート）は常に変化するものです。日本円の価値が外国通貨より高くなることを円高といいます。たとえば、昨日1ドル120円で、今日1ドル118円に変化するような状況のことです。

申込(販売) 手続等

取得申込みの流れ

申込取扱場所

販売会社の本・支店、営業所等において申込みの取扱いを行います。販売会社については、委託会社の後記照会先にお問合せください。

申込日

原則として販売会社の営業日に取得申込みが行われ、かつ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分として取扱います。ただし、フランクフルト証券取引所の休業日またはフランクフルトの銀行の休業日に該当する日を除きます。

※詳しくは、販売会社にお問合せください。

申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。ただし、収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日(決算日)の基準価額とします。基準価額については、販売会社または委託会社の後記照会先にお問合せください。

申込単位

販売会社が定める単位とします。ただし、収益分配金を再投資する場合は1口単位とします。申込単位の詳細については、販売会社または委託会社の後記照会先にお問合せください。

(注)当ファンドの取得申込者は、取得申込みをする際に、「一般コース」か「自動けいぞく投資コース」か、どちらかのコースを申し出るものとします。ただし、申込取扱場所によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せください。

- ・「一般コース」とは、収益分配時に収益分配金を受取るコースです。
- ・「自動けいぞく投資コース」とは、収益分配時に、収益分配金が税金引き後無手数料で再投資されるコースです。

- ・「自動けいぞく投資コース」を選択する場合、取得申込者は、当該販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」にしたがって契約※(以下「自動けいぞく投資契約」といいます)を締結します。なお、収益分配金を再投資せず受取りを希望される場合は、販売会社によっては再投資の停止を申し出ることができません。詳しくは、販売会社にお問合せください。

※販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を用いることがあり、この場合、該当する別の名称に読み替える場合があります。

委託会社 (ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社)

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>
フリーダイヤル 0120-442-785
(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)



自動けいぞく投資

収益分配時に、分配金から税金を差し引いた金額を無手数料で同一ファンドに自動的に再投資することをいいます。

販売会社

ファンドの販売を行う会社(証券会社や銀行、生保、損保などの金融機関)をいいます。販売会社は、募集の取扱いのほか、解約請求の受付、収益分配金・償還金および一部解約金の支払いなどを行い、ファンドに関する投資家への窓口となります。

申込手数料

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.15%（税抜3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。

申込手数料の詳細については、販売会社または委託会社の前記照会先にお問合せください。

申込代金支払日

原則として販売会社が定める日までに申込みの販売会社に支払うものとします。詳細については、販売会社にお問合せください。

※当ファンドの取得申込者は、販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うため後述の「振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下の口座管理機関（社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）、第2条に規定する「口座管理機関」をい）、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

取得申込みの受け付けの中止、すでに受け付けた取得申込みの受け付けの取消し等

a. 信託財産の効率的な運用に資するため必要があると委託会社が判断する場合、委託会社は、受益権の取得申込みの受け付けを制限または停止することができます。

b. 委託会社は、証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もし

申込代金の支払いまで（イメージ図）



くは流動性の極端な減少等）があるときは、受益権の取得申込みの受け付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受け付けを取り消すことができます。

申込代金

申込金額（基準価額に取得申込口数を乗じて得た額）に、申込手数料などを加算した額をいいます。

申込手数料

ファンドの取得申込みの際に投資家が販売会社に支払う手数料のことです。申込手数料はファンド毎に販売会社がそれぞれ独自に定めています。

換金（解約） 手続等

換金（解約）の流れ

申込日

原則として販売会社の営業日に解約請求が行われ、かつ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分として取扱います。ただし、フランクフルト証券取引所の休業日またはフランクフルトの銀行の休業日に該当する日を除きます。

※詳しくは、販売会社にお問合せください。

解約価額

解約請求受付日の翌営業日の基準価額となります。基準価額については、販売会社または委託会社の後記照会先にお問合せください。

お手取額

解約価額から解約に係る所定の税金を差し引いた額となります。詳しくは後記「費用・税金等」をご覧ください。

解約単位

販売会社が定める単位とします。解約単位の詳細については、販売会社または委託会社の後記照会先にお問合せください。

解約代金支払日

原則として解約請求受付日から起算して7営業日目から販売会社の本・支店、営業所等においてお支払いいたします。※当ファンドの一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものと、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

解約請求の受付の中止、すでに受けた解約請求の受けの取消し等

委託会社は、証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止することおよびすでに受けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消すことができます。その場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受けたものとして前記「解約価額」に準じて計算された価額とします。

買取請求について

買取請求の取扱については、販売会社にお問合せください。



買取請求

ファンドの換金方法の一つで、受益権を販売会社に買い取ってもらうことにより換金する方法をいいます。



委託会社（ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社）

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>

フリーダイヤル 0120-442-785

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

解約代金の受取りまで（イメージ図）



<個人の受益者の場合>

以下の内容は平成22年9月末現在施行されている税法に基づくものであり、税法が改正された場合等には内容が変更されることがあります。

時期	項目	受益者の費用・税金	
申込時	申込手数料	取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.15% (税抜3.0%) を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額	
信託期間中	信託報酬*	信託財産の純資産総額に対して年率1.974% (税抜1.88%)	【内訳】 販売会社 年率0.945% (税抜0.90%) 委託会社 年率0.945% (税抜0.90%) 受託会社 年率0.084% (税抜0.08%)
収益分配金受取時	税金	普通分配金×10% (所得税7%、地方税3%) (注) 税率は平成24年1月1日から20% (所得税15%、地方税5%) となる予定です。	
解約請求による換金時	信託財産留保額	ありません。	
	税金	一部解約時の差益×10% (所得税7%、地方税3%) (注) 税率は平成24年1月1日から20% (所得税15%、地方税5%) となる予定です。	
ファンドの償還時	税金	償還時の差益×10% (所得税7%、地方税3%) (注) 税率は平成24年1月1日から20% (所得税15%、地方税5%) となる予定です。	

※信託報酬ならびに当該信託報酬に係る消費税および地方消費税に相当する金額 (以下「消費税等相当額」といいます。) は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。

委託会社および受託会社の報酬は、ファンドから支払われます。信託報酬の販売会社への配分は、販売会社が行うファンドの募集の取扱い等に関する業務に対する代行手数料であり、ファンドから委託会社に支払われた後、委託会社より販売会社に対して支払われます。また、マザーファンドの運用の指図を行うDWSインベストメントGmbHに対する投資顧問報酬は、委託会社が受ける信託報酬の中から支払われます。

(注) 課税上の取扱いの詳細については、後記「課税上の取扱い」をご参照ください。

買取請求については、販売会社にお問合せください。

費用・税金等



信託報酬

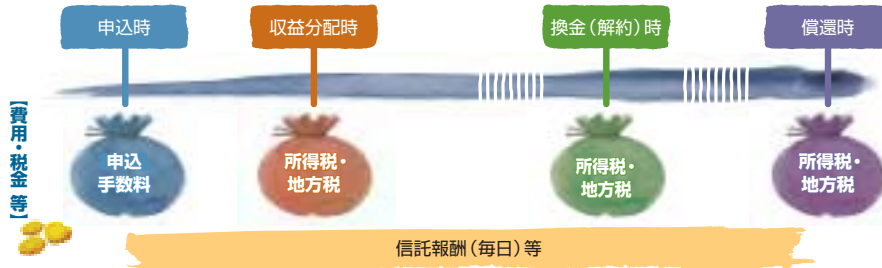
受益者が信託財産から間接的に負担する費用です。委託会社、受託会社、販売会社がそれぞれの業務に対する報酬として受け取るもので、ファンド毎に一定の率が契約によって決められています。

個別元本

各受益者の取得元本 (申込手数料および当該申込手数料に係る消費税等相当額は含まれません。) のことです。



申込みから換金(解約)および償還までの費用の概要 (イメージ図)



※詳細は前記をご参照ください。

その他の費用

当ファンドは、以下の費用を受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

①信託財産に関する相続、信託事務の処理に要する諸費用(監査費用、法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用等を含みます。)および受託会社の立替えた立替金の利息(以下「諸経費」といいます。)は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

②委託会社は、前記①に定める信託事務の処理等に要する諸費用の支払いを信託財産のために行い、支払金額の支弁を信託財産から受けることができます。この場合、委託会社は、現に信託財産のために支払った金額の支弁を受ける際に、あらかじめ受領する金額に上限を付することができます。また、委託会社は実際に支払う金額の支弁を受ける代わりに、かかる諸費用の金額をあらかじめ合理的に見積もったうえで、実際の費用額にかかわらず固定率または固定金額にて信託財産からその支弁を受けることもできます。

③前記②において、諸費用の上限、固定率または固定金額を定める場合、委託会社は信託財産の規模等を考慮して、期中にあらかじめ委託会社が定めた範囲内にかかる上限、固定率または固定金額を変更することができます。

④前記②において諸費用の固定率または固定金額を定める場合、かかる諸費用の額は、当ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に応じて計上されます。かかる諸費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支弁します。

なお、有価証券届出書提出日現在、前記②により定める上限は、信託財産の純資産総額に年率0.10%を乗じて得た金額とします。

⑤信託財産における組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等の証券取引に伴う手数料・税金は、信託財産

追加型株式投資信託

当初設定後も追加設定が行われ、追加設定分も当初の信託財産とともに運用される株式投資信託で、オープン型投資信託ともいいます。基本的にいつでも時価で買付・売却が可能です。

が負担します。この他に、売買委託手数料等に係る消費税等相当額、資産を外国で保管する場合の費用および先物取引・オプション取引に要する費用等についても信託財産が負担するものとします。

課税上の取扱い

日本の居住者（法人を含みます。）である受益者に対する課税については、以下の取扱いとなります。

① 個別元本方式について

追加型株式投資信託については、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および申込手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、原則として、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については販売会社毎に、個別元本の算出が行われず。また、同一販売会社であっても複数口座で同一ファンドを取得する場合は当該口座毎に、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。受益者が特別分配金を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「特別分配金」については後記「②収益分配金について」をご参照ください。）

② 収益分配金について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「特別分配金」（受益者の元本の一部払戻しに相当する部分）の区別があります。受益者が収益分配金を受け取る際、(i)当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、(ii)当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が特別分配金となり、当該収益分配金から当該特別分配金を控除した額が普通分配金となります。

③ 課税の取扱いについて

以下の内容は平成22年9月末現在施行されている税法に基づくものであり、税法が改正された場合等には内容が変更されることがあります。

a. 個人の受益者に対する課税

◆ 収益分配金の取扱い
収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、原則として10%（所得税7%および地方税3%）^{*}の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行い、総合課税または申告分離課税を選択することもできます。

◆ 一部解約金、償還金の取扱い

一部解約時および償還時の差益については譲渡所得となり、原則として10%（所得税7%および地方税3%）^{*}の税率による申告分離課税が適用されます。

収益分配金のうち、所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、特別分配金は課税されません。また、配当控除の適用はありません。

b. 法人の受益者に対する課税

◆ 収益分配金、一部解約金、償還金の取扱い



普通分配金

ファンドの決算のときに受け取る分配金の中で、課税される分配金のことです。

特別分配金

ファンドの決算のときに受け取る分配金の中で、「元本の一部の払い戻しに相当する部分」として非課税扱いになる分配金のことです。



収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、7%（所得税のみ）^{※2}の税率で源泉徴収され、法人の受取額となります。なお、地方税の源泉徴収はありません。収益分配金のうち、所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、特別分配金は課税されません。また、益金不算入制度は適用されません。

※1 税率は平成24年1月1日から20%（所得税15%および地方税5%）となる予定です。

※2 税率は平成24年1月1日から15%（所得税のみ）となる予定です。

（注1）前記のほか、販売会社によっては、受益権を買い取る場合があります。買取請求時の課税の取扱いについて、詳しくは、販売会社にお問合せください。

（注2）課税上の取扱いの詳細については、税務専門家または税務書にご確認ください。

委託会社

信託財産の運用指図等を行う運用会社をいいます。商品の性格や運用方針などを決め、投資家に商品を説明する目論見書や運用内容・結果を説明する運用報告書の作成などを行います。

ファンドの 仕組み・ 運用体制

ファンドの仕組みと関係法人

委託会社およびファンドの関係法人

委託会社およびファンドの関係法人の名称、ファンドの運営上の役割は次の通りです。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社 (委託会社)

当ファンドの委託会社として、信託財産の運用指図、受託会社との信託契約の締結、目論見書・運用報告書の作成等を行います。

株式会社りそな銀行 (受託会社)

(再信託受託会社：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)

委託会社との間で「証券投資信託契約」を締結し、これに基づき、当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理、基準価額の計算、外国証券を保管・管理する外国の

金融機関への指図等を行います。
なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託することができます。

販売会社

委託会社との間で「投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約」を締結し、これに基づき、当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金・償還金および一部解約金の支払い等を行います。

DWSインベストメントAG (投資顧問会社)

委託会社から運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの運用指図等を行います。

なお、委託を受けた者が、法律に違反した場合、信託契約に違反した場合、信託財産に重大な損失を生ぜしめた場合等において、委託会社は、運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更することができます。



受託会社

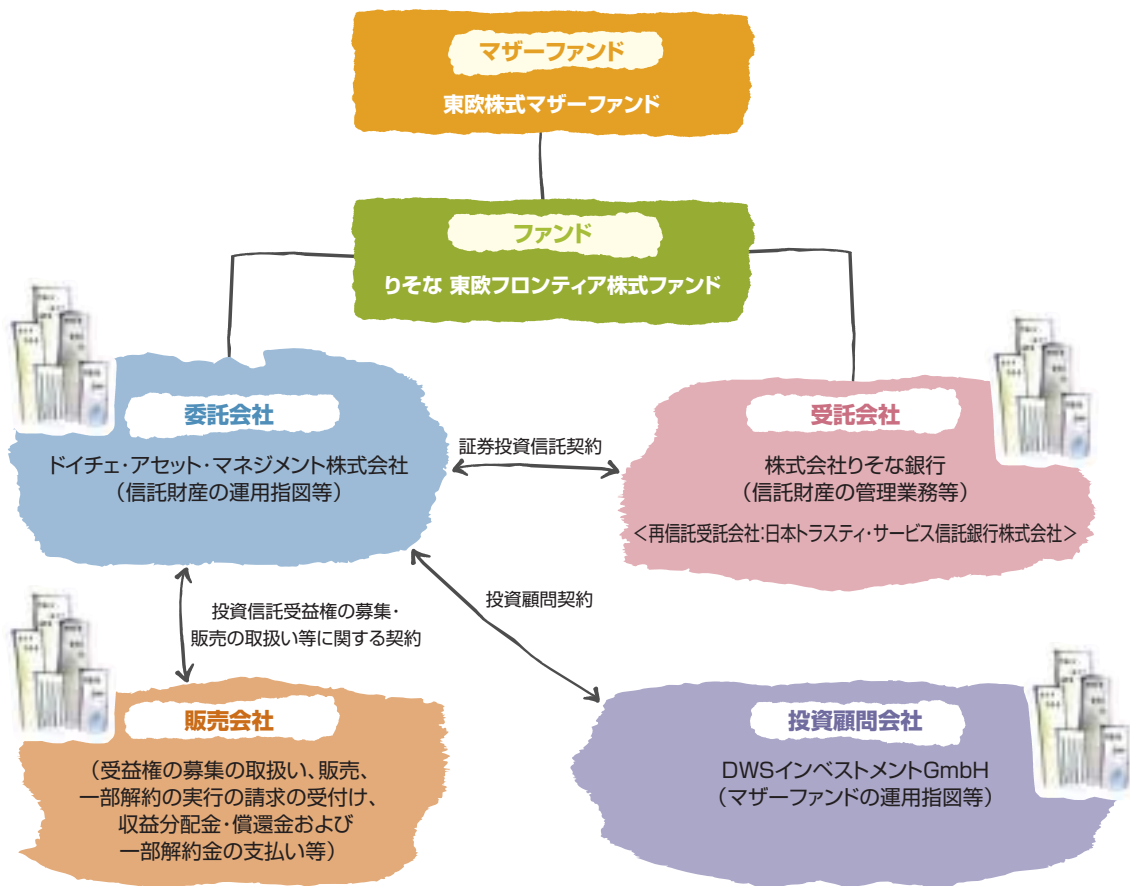
信託財産の保管・管理を行う信託会社または信託業務を行う銀行をいいます。委託会社と締結した信託契約に基づいて、信託財産の保管・管理、基準価額の計算、外国証券を保管・管理する外国の金融機関への指図または連絡などの業務を行います。

目論見書

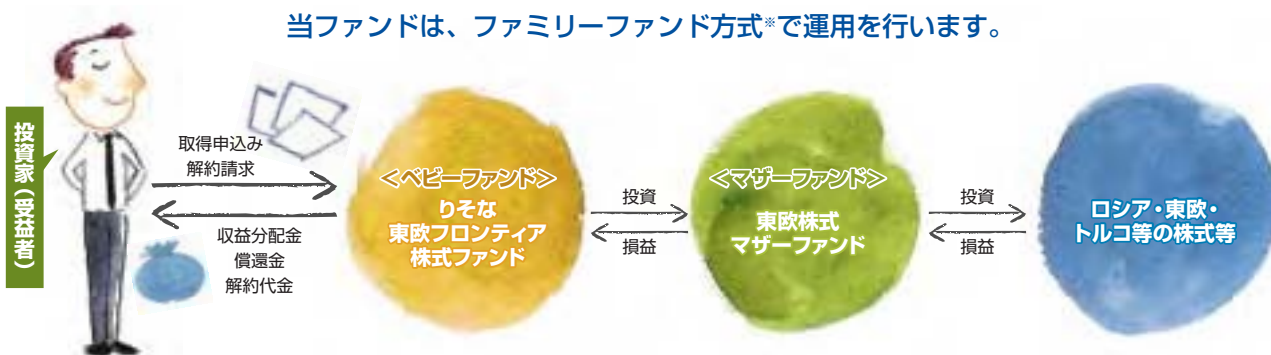
ファンドの内容を説明する法定文書です。ファンドの申込者に必ず交付しなければならない「交付目論見書」と、投資家から請求があった場合に交付される「請求目論見書」があります。なお、別称として「投資信託説明書」と称して使用場合があります。



ファンドの仕組み



当ファンドは、ファミリーファンド方式[※]で運用を行います。



※「ファミリーファンド方式」とは、運用および管理面の合理化・効率化をはかるため、取得申込者から集めた資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して実質的な運用を行う仕組みです。

沿革

1985年	モルガン グレンフェル インターナショナル アセット マネジメント (株) 設立
1987年	投資顧問業登録、投資一任業務認可取得
1990年	ドイツ銀投資顧問(株)と合併し、ディービー モルガン グレンフェル アセット マネジ メント(株)に社名を変更
1995年	ディービー モルガン グレンフェル投信投資 顧問(株)に社名を変更 証券投資信託委託会社免許取得
1996年	ドイツ・モルガン・グレンフェル投信投資 顧問(株)に社名を変更
1999年	バンカース・トラスト投信投資顧問(株)と 合併し、ドイツ・アセット・マネジメン ト(株)に社名を変更
2002年	チューリッヒ・スカダー投資顧問(株)と合併
2005年	ドイツ・アセット・マネジメン(株)と ドイツ信託銀行(株)の資産運用サービス 業務を統合 資産運用部門はドイツ・アセット・マネジ メント(株)に一本化

委託会社の概要 (2010年9月末現在)

名 称	ドイツ・アセット・マネジメン株式会社
代表者の役職氏名	代表取締役社長 関崎 司
本店の所在の場所	東京都千代田区永田町二丁目11番1号 山王パークタワー
資本金の額	3,078百万円

大株主の状況 (2010年9月末現在)

名 称	ドイツ・アジア・パシフィック・ホールディングス・ ピーティーイー・リミテッド
住 所	シンガポール 048583 ワン ラフルズ クウェイ #17-10
所有株式	61,560株
所有比率	100%

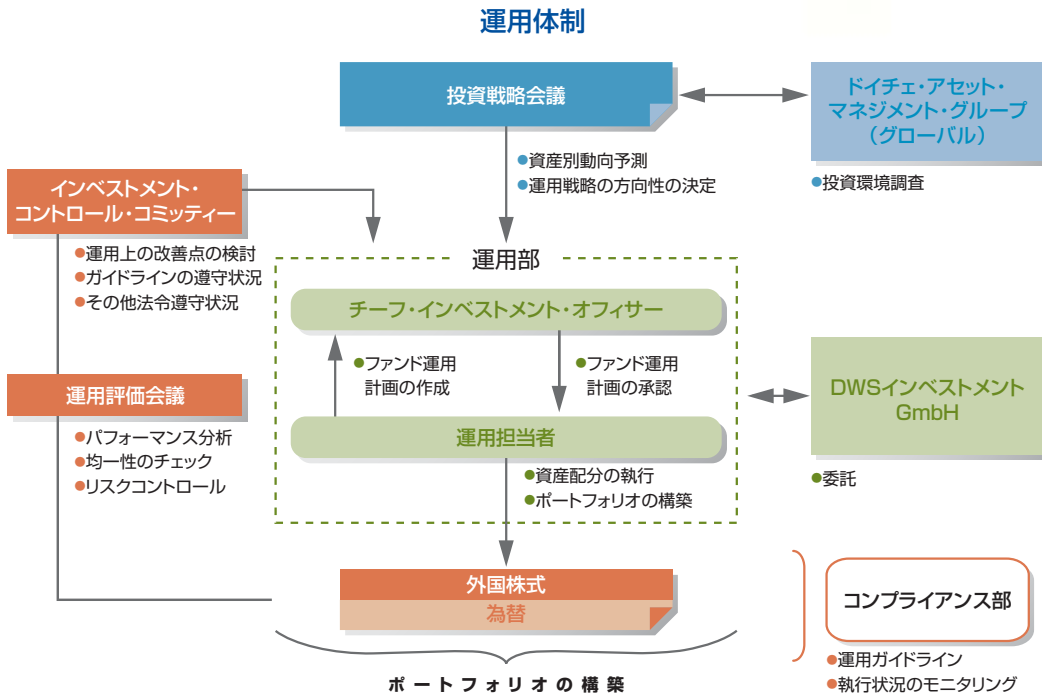
委託会社の概要等





運用体制

● **ファンドの運用体制**
当ファンドの運用体制は次の通りです。



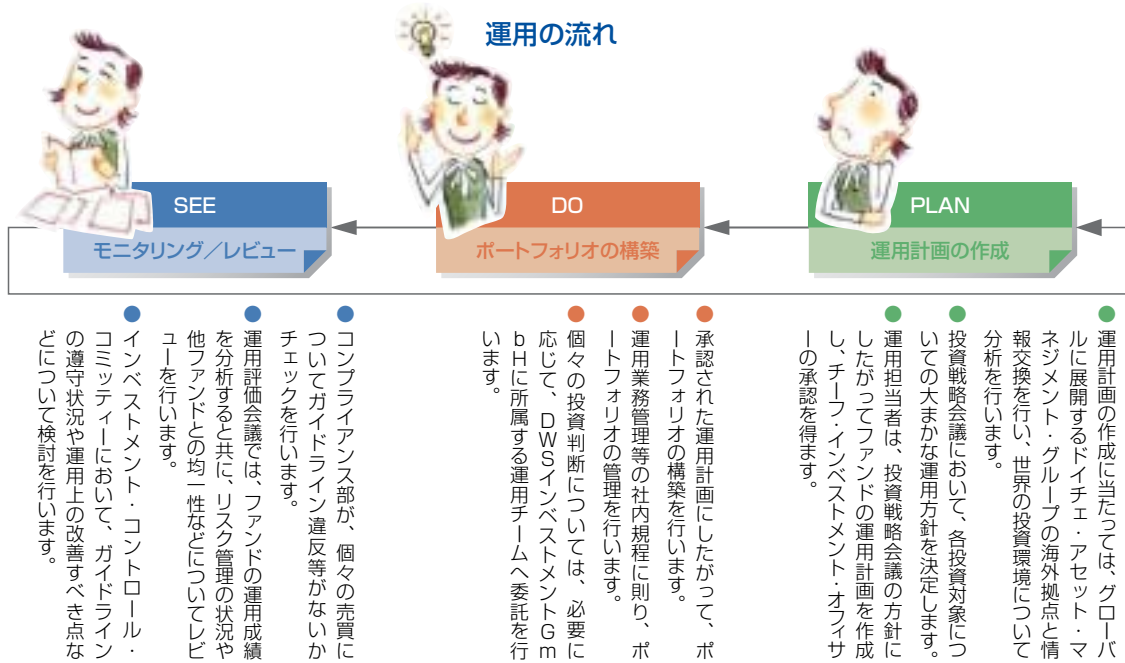
委託会社は、マザーファンドに係る運用指図に関する権限をDWSインベストメントGmbH（所在地：ドイツ・フランクフルト）に委託します（以下「運用委託先」という場合があります）。運用計画の作成、法令等の遵守状況確認、運用評価およびリスク管理等のその他運用に関連する業務は、委託会社の運用部が行います。当該運用部における主な意思決定機関は、投資戦略会議、運用評価会議、インベストメント・コントロール・コミッティーの3つがあります。これらはいずれもチーフ・インベストメント・オフィサーが主催し、各運用担当者および必要に応じて関係部署の代表者が参加して行われます。

投資戦略会議では、投資環境予測や運用戦略の方向性の決定など、運用計画の作成に必要な基本的な事項を審議します。運用評価会議では、超過収益率の要因分析や投資行動、均一性等を含めて審議します。インベストメント・コントロール・コミッティーでは、顧客勘定における運用リスクに係る諸問題を把握し、必要な意思決定を行います。これらの運用体制については、社内規程および運用部内規程により定められています。

運用委託先の管理体制については、当該委託先との継続的な情報交換および定期的な訪問などを通じて、運用面、法令遵守面、業務執行面から評価を行います。評価結果は前述のインベストメント・コントロール・コミッティーに報告され、同コミッティーは必要に応じて適切な措置を行います。

ファンド

多数の投資家から集めた資金をひとまとめにして専門家が運用し、その成果を投資家に還元する仕組みのことをいいます。本書では、投資信託のことを指します。



〈内部管理およびファンドに係る意思決定を監督する組織〉

インベストメント・コントロール・コミッティーは、その活動内容等をエグゼクティブ・コミッティーに報告します。エグゼクティブ・コミッティーは代表取締役が議長を務め、委託会社の業務運営、リスク管理および内部統制等に係る諸問題を把握し、取締役会決議事項については取締役会に対する諮問機関であるとともに、それ以外の事項については代表取締役が行う意思決定を補佐する機関としての役割を担います。さらに、コンプライアンス部は、運用部から独立した立場でガイドライン遵守状況および利益相反取引等の検証を行います。また、独立したモニタリング活動として、すべての部門から独立した監査部が内部統制の有効性および業務プロセスの効率性を検証し、経営陣に対して問題点の指摘、改善点の提案を行います。前記各組織については、その内部管理能力の有効性の観点から十分な人員を確保しております。

〈委託会社等によるファンドの関係法人に対する管理体制〉

当ファンドの受託会社に対する管理については、証券投資信託契約に基づく受託会社としての業務の適切な遂行および全体的なサービスレベルを委託会社の業務部においてモニタリングしております。運用委託先に対しては、運用委託に関する社内規程に基づき管理します。委託会社は、資産運用能力(運用パフォーマンス実績)、信用力、リスク管理能力(運用ガイドラインの遵守状況含む。)および内部統制の状況(または内部監査の実施状況)の観点から、定期的に運用委託先を定量的・定性的に評価します。評価結果はインベストメント・コントロール・コミッティーに報告され、同コミッティーは評価結果を踏まえて運用委託先の契約継続の可否等を検討します。また重要な契約違反、エラーまたは問題点などが判明した場合、直ちに運用委託先に報告および是正を求めるものとします。



投信博士の
用語解説

るリスク) および内部統制に係る事項について決議する
機関です。
・ 毎月開催

◆インベストメント・コントロール・コミッティー

・ 顧客勘定における運用リスクに係る諸問題等を把握し、
意思決定を行う決議機関です。
・ 毎月開催

◆ニュー・プロダクト・アプルーバル・コミッティー

・ 新商品の導入にあたり、付随する諸問題等を導入前に検
討し、導入の承認を決議するとともに、既存商品の変更
についても、同様に検討し、当該変更の承認を決議する
機関です。
・ 随時開催

◆コンプライアンス&インターナル・オーディット・コミッ
ティー

・ 法務、コンプライアンスおよび監査に係る諸問題等(役
職員の表彰・懲戒に係る事項を含む。)を把握し、必要な
意思決定を行う決議機関です。
・ 6カ月毎に開催

◆コンプライアンス部

・ 法令および諸規則の遵守状況・運用業務等の適正な執行
の管理を行います。
・ 違反等の是正・改善および未然防止のための助言、チエ
ック、取締役会への報告を行います。
・ 資産運用は、運用部による内部管理のほかに、コンプラ
イアンス部が運用ガイドラインの遵守等、運用部から独
立した立場で以下の項目をチェックします。
・ 運用ガイドラインのモニター
・ 取引の妥当性のチェック
・ 利益相反取引のチェック

◆監査部

・ 監査部は、内部監査の立案、実施等を行い、委託会社
における内部管理態勢、リスク管理態勢の適切性、有効性
の検証を行います。

(注)投資リスクに対する管理体制は、今後変更となる場合があります。



その他

ファンド管理の概要および 運営等に関する事項について

●資産の評価

〈基準価額の計算方法等〉について
 基準価額は、信託財産に属する
 資産（受入担保金代用有価証券を
 除きます。）を法令および社団法
 人投資信託協会規則にしたがって
 時価評価して得た信託財産の資産
 総額から負債総額を控除した金額
 （以下「純資産総額」といいます。）
 を、計算日における受益権総口数
 で除した金額をいいます。
 受益権一口当たりの純資産額が基
 準価額です。なお、便宜上、1万
 口当たりに換算した価額で表示さ
 れることがあります。
 基準価額は、原則として委託会社
 の営業日に日々算出されます。基
 準価額については、販売会社また
 は委託会社の下記照会先にお問合
 せください。

委託会社（ドイツ・アセット・マネジメント株式会社）

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>

フリーダイヤル 0120-442-785

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

また、原則として日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準
 価格」欄に、前日付の基準価額が掲載されます。（略称（愛
 称）：こほく）

〈運用資産の評価基準および評価方法〉

マザーファンド	株式	公社債等	外貨建資産	外国為替 予約取引
基準価額で評価します。	原則として、証券取引所における計算日の 最終相場（外国で取引されているものにつ いては、原則として、計算日に知りうる直近 の日の最終相場）で評価します。	法令および社団法人投資信託協会規則に したがって、時価評価します。	原則として、わが国における計算日の対顧 客電信売買相場の仲値により評価します。	原則として、わが国における計算日の対顧 客先物売買相場の仲値により評価します。

●保管

当ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿
 に記載または記録されることにより定まりますので、保
 管に関する該当事項はありません。

●信託期間

信託契約締結日（平成18年5月19日）から無期限としま
 す。

●計算期間

①当ファンドの計算期間は、毎年2月19日から8月18日
 までおよび8月19日から翌年2月18日までとするこ
 とを原則とします。

信託期間

ファンドが設定されてから償還されるまでの期
 間をいいます。

公告

国、公共団体、企業が、ある事項を広く一般に知
 らせること。官報・新聞への掲載や掲示などを
 いいます。

②前記①にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

●信託の終了

①委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、受益権の口数が50億口を下回ることとなったとき、信託終了前にこの信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

②委託会社は、前記①の事項について、あらかじめ解約しようとする旨を公告し、かつその旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

③前記②の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

④前記③の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記①の信託契約の解約をしません。

⑤委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

⑥前記③から⑤までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記③の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

●信託約款の変更

①委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することができるものと し、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

②委託会社は、前記①の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。

③前記②の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

④前記③の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記①の信託約款の変更をしません。

⑤委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。



信託約款

ファンドの運営・管理上の基本となる運用方針や仕組み等を定めているものです。「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて作成され、あらかじめ監督官庁に届出が行われます。委託会社と受託会社は、信託約款に基づいてフ

ファンドの運営・管理を行います。

● 信託契約に関する監督官庁の命令

- ① 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- ② 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前記「● 信託約款の変更」の規定にしたがいます。

● 委託会社の登録取消し等に伴う取扱い

- ① 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。
- ② 前記①の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、前記「● 信託約款の変更④」に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

● 運用報告書

委託会社は、法令に基づき、当該信託財産の計算期間の末日毎および信託終了時に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成し、これを販売会社を通じて当該信託財産に係る知られたる受益者に対して交付します。

● 関係法人との契約の更改等

- ① 投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約当初の契約の有効期間は1年間とします。ただし、期間満了3カ月前までに、委託会社および販売会社いずれからも、何らの意思表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。また、委託会社または販売会社は、他方に対して書面による通知を3カ月前になすことにより

当該契約を解約することができます。

● 投資顧問契約

契約の期間については、特段の定めはありません。ただし、90日以上前の書面による相手方への通知により、どちらの当事者も投資顧問契約を終了することができます。終了の通知に際し、投資顧問会社は委託会社により別段指示されない限り、終了日まで運用の指図を続けるものとします。

● 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

- ① 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- ② 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

● 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- ① 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、前記「● 信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。

- ② 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

● 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

● 信託約款に関する疑義の取扱い

信託約款の解釈について疑義が生じたときは、委託会社と受託会社との協議により定めま。

● 再信託

受託会社は、当ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

● 受益者の権利等

受益者の有する主な権利は次の通りです。

① 収益分配金に対する請求権

受益者は、委託会社が支払いを決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、原則として決算日から起算して5営業日までに、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益者に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払いを開始します。「自動けいぞく投資コース」をお申込みの場合は、収益分配金は税引き後無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

② 償還金に対する請求権

受益者が収益分配金について支払開始日から5年間のその支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属するものとして扱われます。

受益者は、当ファンドの償還金を持分に応じて請求する権利を有します。

償還金は、原則として信託終了日(信託終了日が休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までに、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払いを開始します。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属するものとして扱われます。

③ 受益権の一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、販売会社を通じて、販売会社が定める単位をもって一部解約を委託会社に請求する権利を有します。一部解約金は、原則として一部解約の実行の請求を受けた日から起算して7営業日目から受益者に支払われます。

④ 反対者の買取請求権

前記「● 信託の終了」または「● 信託約款の変更」のうち、その内容が重大な変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。

この買取請求権の内容および買取請求の手続きに関する事項は、前記「● 信託の終了」または「● 信託約款の変更」に規定する公告または書面に付記します。

⑤ 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。



受益権

ファンドの収益を受ける権利のことです。

収益分配

ファンドの決算時に、運用の結果あげられた収益などを受益権の口数に応じて受益者に分配することをいいます。収益分配金は、原則として決算日から起算して5営業日までに販売会社を通じて支払いを開始します。

国内投資信託受益証券の形態等

契約型の追加型証券投資信託の受益権です。格付けは取得していません。

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「振替機関に関する事項」に記載の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます）。委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

発行（売出）価額の総額

1兆円を上限とします。

申込期間

平成22年5月10日から平成23年5月18日まで（継続申込期間）ただし、取得申込受付日がフランクフルト証券取引所の休業日またはフランクフルトの銀行の休業日に該当する場合、取得申込みの受付は行いません。

※継続申込期間は、前記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

振替機関に関する事項

振替機関は次の通りです。
株式会社証券保管振替機構

その他

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、前記「振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業に係る業務規程等の規則にしたがって取扱われるものとします。

当ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および前記「振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

国内投資信託受益証券事務の概要

① 名義書換について

該当事項はありません。

② 受益者集会について

受益者集会は開催しません。したがってその議決権は存在しません。

③ 受益者に対する特典

該当事項はありません。

④ 内国投資信託受益権の譲渡制限の内容

譲渡制限は設けておりません。ただし、受益権の譲渡の手続きおよび受益権の譲渡の對抗要件は、以下によるものとします。

(1) 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

(2) 前記(1)の申請のある場合には、前記(1)の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記(1)の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

(3) 前記(1)の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたとときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(4) 受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

⑤ 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

⑥ 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に支払います。

⑦ 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。





(1) 【投資状況】

「りそな 東欧フロンティア株式ファンド」

(平成22年 9月30日現在)

資産の種類	地域別(国名)	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	3,914,181,541	100.89
コール・ローン・その他の資産 (負債控除後)	—	△34,360,290	△0.89
合計(純資産総額)	—	3,879,821,251	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(参考情報)

「東欧株式マザーファンド」

(平成22年 9月30日現在)

資産の種類	地域別(国名)	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	アメリカ	236,477,175	0.75
	イギリス	590,514,170	1.88
	バミューダ	608,114,100	1.93
	オランダ	44,577,120	0.14
	トルコ	5,758,753,066	18.29
	チェコ	370,400,000	1.18
	キプロス	625,648,537	1.99
	ハンガリー	437,170,425	1.39
	ポーランド	1,882,509,200	5.98
	ロシア	19,006,960,393	60.36
	カザフスタン	4,459,224	0.01
	ジャージー	192,537,337	0.61
	ガーンジー	67,894,200	0.22
	小計	29,826,014,947	94.71
社債券	ハンガリー	577,233,261	1.83
	ウクライナ	27,241,500	0.09
	小計	604,474,761	1.92
コール・ローン・その他の資産 (負債控除後)	—	1,060,283,653	3.37
合計(純資産総額)	—	31,490,773,361	100.00

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。



(2) 【投資資産】

① 【投資有価証券の主要銘柄】

「りそな 東欧フロンティア株式ファンド」

<評価額(全銘柄)>

(平成22年 9月30日現在)

国/ 地域	種類	銘柄名	数量 (口)	簿価単価 評価単価 (円)	簿価金額 評価金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託 受益証券	東欧株式マザーファンド	5,152,950,950	0.7401	3,813,698,999	100.89
				0.7596	3,914,181,541	

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

<種類別投資比率>

(平成22年 9月30日現在)

種類	国内/外国	投資比率(%)
親投資信託受益証券	国内	100.89
合計	—	100.89

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類別の評価金額の比率をいいます。

(参考情報)

「東欧株式マザーファンド」

<評価額(上位30銘柄)>

(平成22年 9月30日現在)

国/ 地域	種類	銘柄名	業種	数量(額面 又は株数)	簿価単価 評価単価 (円)	簿価金額 評価金額 (円)	投資 比率 (%)
ロシア	株式	SBEBANK-CLS	銀行	14,250,000	224.63 232.60	3,201,085,800 3,314,557,125	10.53
ロシア	株式	OAO GAZPROM SPON ADR	エネルギー	1,340,000	1,800.45 1,739.26	2,412,607,824 2,330,615,100	7.40
ロシア	株式	LUKOIL-SPON ADR	エネルギー	490,000	4,543.04 4,724.09	2,226,091,560 2,314,806,648	7.35
ロシア	株式	MOBILE TELESYSTEMS- SP ADR	電気通信サービス	812,500	1,861.64 1,761.89	1,512,584,287 1,431,540,825	4.55
トルコ	株式	TURKIYE GARANTI BANKASI	銀行	2,650,000	426.38 492.65	1,129,928,200 1,305,525,150	4.15
ロシア	株式	JSC MMC NORILSK NICKEL-ADR	素材	825,000	1,433.32 1,419.07	1,182,490,650 1,170,734,895	3.72
ロシア	株式	OAO ROSNEFT OIL CO- GDR	エネルギー	1,850,000	559.07 548.60	1,034,296,890 1,014,913,515	3.22
ロシア	株式	NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S	エネルギー	144,300	6,261.35 6,973.82	903,513,382 1,006,322,803	3.20
トルコ	株式	TURKIYE IS BANKASI- C	銀行	2,400,000	325.55 357.24	781,327,200 857,385,600	2.72
ロシア	株式	SURGUTNEFTEGAZ-SP ADR PREF	エネルギー	2,000,000	357.91 388.08	715,822,800 776,173,200	2.46
ポーランド	株式	PKO BANK POLSKI SA	銀行	600,000	1,144.34 1,249.24	686,608,722 749,548,800	2.38
ポーランド	株式	KGHM POLSKA MIEDZ S.A.	素材	195,000	3,116.25 3,360.50	607,669,504 655,297,500	2.08
バミューダ	株式	VIMPELCOM LTD-SPON ADR	電気通信サービス	500,000	1,299.21 1,216.22	649,605,000 608,114,100	1.93
ハンガリー	社債券	MORGAN STANLEY BV OTP BANK 03/04/2011	銀行	265,000	2,006.34 2,178.23	531,680,276 577,233,261	1.83
ロシア	株式	MECHEL OAO-ADR	素材	270,000	1,928.69 2,062.81	520,748,514 556,958,754	1.77
ロシア	株式	SISTEMA JSFC-REG S SPONS GDR	電気通信サービス	250,000	2,248.05 2,154.17	562,013,100 538,543,500	1.71
トルコ	株式	TEKFEN HOLDING AS	資本財	1,608,824	314.02 331.31	505,217,391 533,027,523	1.69



国/地域	種類	銘柄名	業種	数量(額面又は株数)	簿価単価 評価単価 (円)	簿価金額 評価金額 (円)	投資 比率 (%)
ロシア	株式	RUSHYDRO-SP ADR REG S	公益事業	1,130,000	461.01 428.73	520,941,300 484,475,409	1.54
ロシア	株式	RASPADSKAYA-CLS	素材	950,000	419.10 471.90	398,145,000 448,311,270	1.42
キプロス	株式	GLOBALTRA-SPONS GDR REG S	運輸	357,927	1,181.86 1,249.75	423,020,320 447,321,487	1.42
ロシア	株式	MAGNIT OJSC-SPON GDR REGS	食品・生活必需品 小売り	200,000	1,831.46 2,036.82	366,293,400 407,365,200	1.29
トルコ	株式	ASYA KATILIM BANKASI AS	銀行	2,000,000	198.28 195.90	396,571,551 391,816,000	1.24
ロシア	株式	LSR GROUP OJSC-GDR REGS	素材	579,420	716.66 672.23	415,247,716 389,507,214	1.24
トルコ	株式	HACI OMER SABANCI HOLDING	各種金融	900,000	394.69 429.26	355,227,300 386,342,100	1.23
ロシア	株式	TATNEFT-SPONSORED REGS GDR	エネルギー	149,999	2,660.44 2,566.56	399,064,359 384,982,693	1.22
チェコ	株式	CEZ AS	公益事業	100,000	4,014.21 3,704.00	401,421,000 370,400,000	1.18
ロシア	株式	OJSC TNK-BP HOLDING	エネルギー	2,000,000	174.34 183.56	348,691,200 367,131,600	1.17
ロシア	株式	AEROFLOT-RUSSIAN AIRLINE-CLS	運輸	1,950,000	168.47 179.37	328,532,490 349,780,860	1.11
トルコ	株式	TAV HAVALIMANLARI HOLDING AS	運輸	750,000	386.05 449.43	289,540,500 337,077,000	1.07
ロシア	株式	TMK-GDR REG S	エネルギー	220,000	1,391.41 1,424.94	306,110,640 313,486,800	1.00

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

<種類別及び業種別投資比率>

(平成22年 9月30日現在)

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	外国	エネルギー	28.80
		素材	15.81
		資本財	2.15
		運輸	3.60
		自動車・自動車部品	0.59
		耐久消費財・アパレル	0.77
		メディア	0.53
		食品・生活必需品小売り	1.29
		食品・飲料・タバコ	1.20
		ヘルスケア機器・サービス	0.06
		銀行	25.98
		各種金融	1.23
		保険	0.67
		不動産	0.92
		電気通信サービス	8.19
	公益事業	2.91	
	小計	94.71	
社債券	外国	銀行	1.83
		不動産	0.09
		小計	1.92
	合計	96.63	

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該種類別及び業種別の評価金額の比率をいいます。

② 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③ 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

① 【純資産の推移】

計算期間末 または各月末	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額(円) (分配落)	1口当たり 純資産額(円) (分配付)
第 1期 (平成18年 8月18日)	4,369	4,670	1.0116	1.0815
第 2期 (平成19年 2月19日)	4,919	5,856	1.0475	1.2472
第 3期 (平成19年 8月20日)	8,013	8,328	1.0016	1.0409
第 4期 (平成20年 2月18日)	7,986	8,378	1.0097	1.0593
第 5期 (平成20年 8月18日)	7,789	7,789	0.8805	0.8805
第 6期 (平成21年 2月18日)	1,838	1,838	0.2111	0.2111
第 7期 (平成21年 8月18日)	3,653	3,653	0.3993	0.3993
第 8期 (平成22年 2月18日)	4,330	4,330	0.5073	0.5073
第 9期 (平成22年 8月18日)	3,911	3,911	0.4867	0.4867
平成21年 9月末	4,072	—	0.4536	—
平成21年10月末	4,367	—	0.4898	—
平成21年11月末	4,045	—	0.4584	—
平成21年12月末	4,438	—	0.5090	—
平成22年 1月末	4,385	—	0.5118	—
平成22年 2月末	4,029	—	0.4726	—
平成22年 3月末	4,688	—	0.5592	—
平成22年 4月末	4,760	—	0.5765	—
平成22年 5月末	3,967	—	0.4824	—
平成22年 6月末	3,737	—	0.4557	—
平成22年 7月末	4,074	—	0.5012	—
平成22年 8月末	3,687	—	0.4625	—
平成22年 9月末	3,879	—	0.4984	—

(注) 純資産総額は百万円未満切捨て。



②【分配の推移】

計算期間	計算期間末	1口当たりの分配金(円)
第 1期	平成18年 8月18日	0.0700
第 2期	平成19年 2月19日	0.2000
第 3期	平成19年 8月20日	0.0400
第 4期	平成20年 2月18日	0.0500
第 5期	平成20年 8月18日	0.0000
第 6期	平成21年 2月18日	0.0000
第 7期	平成21年 8月18日	0.0000
第 8期	平成22年 2月18日	0.0000
第 9期	平成22年 8月18日	0.0000

③【収益率の推移】

計算期間	収益率(%)
第 1期 (平成18年 5月19日～平成18年 8月18日)	8.2
第 2期 (平成18年 8月19日～平成19年 2月19日)	23.3
第 3期 (平成19年 2月20日～平成19年 8月20日)	△0.6
第 4期 (平成19年 8月21日～平成20年 2月18日)	5.8
第 5期 (平成20年 2月19日～平成20年 8月18日)	△12.8
第 6期 (平成20年 8月19日～平成21年 2月18日)	△76.0
第 7期 (平成21年 2月19日～平成21年 8月18日)	89.2
第 8期 (平成21年 8月19日～平成22年 2月18日)	27.0
第 9期 (平成22年 2月19日～平成22年 8月18日)	△4.1

(注) 収益率は、小数第2位を四捨五入しております。

- 以下の情報は、有価証券届出書の「第三部ファンドの詳細情報 第4ファンドの経理状況 1財務諸表」に記載された情報を抜粋したものです。
- 当財務諸表は、あらた監査法人による監査を受けております。また、当該監査法人による監査報告書は、当該有価証券届出書に記載されている財務諸表に添付されております。

りそな 東欧フロンティア株式ファンド

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第8期計算期間 (平成22年2月18日現在)	第9期計算期間 (平成22年8月18日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	203,590	19,390
親投資信託受益証券	4,379,943,265	3,966,756,453
流動資産合計	4,380,146,855	3,966,775,843
資産合計	4,380,146,855	3,966,775,843
負債の部		
流動負債		
未払解約金	5,091,162	11,851,629
未払受託者報酬	1,803,437	1,763,327
未払委託者報酬	40,577,361	39,674,809
その他未払費用	2,146,892	2,099,138
流動負債合計	49,618,852	55,388,903
負債合計	49,618,852	55,388,903
純資産の部		
元本等		
元本	8,536,982,783	8,037,223,740
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金(△)	△4,206,454,780	△4,125,836,800
(分配準備積立金)	111,169,644	101,645,244
元本等合計	4,330,528,003	3,911,386,940
純資産合計	4,330,528,003	3,911,386,940
負債純資産合計	4,380,146,855	3,966,775,843

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第8期計算期間 (自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	第9期計算期間 (自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
営業収益		
受取利息	343	134
有価証券売買等損益	1,020,135,569	△117,227,530
営業収益合計	1,020,135,912	△117,227,396
営業費用		
受託者報酬	1,803,437	1,763,327
委託者報酬	40,577,361	39,674,809
その他費用	2,146,892	2,099,138
営業費用合計	44,527,690	43,537,274
営業利益又は営業損失(△)	975,608,222	△160,764,670
経常利益又は経常損失(△)	975,608,222	△160,764,670
当期純利益又は当期純損失(△)	975,608,222	△160,764,670
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	87,614,273	6,674,321
期首剰余金又は期首欠損金(△)	△5,496,365,012	△4,206,454,780
剰余金増加額又は欠損金減少額	592,410,131	365,508,822
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	592,410,131	365,508,822
剰余金減少額又は欠損金増加額	190,493,848	117,451,851
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	190,493,848	117,451,851
分配金	—	—
期末剰余金又は期末欠損金(△)	△4,206,454,780	△4,125,836,800

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第8期計算期間 (自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	第9期計算期間 (自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託 受益証券の基準価額で評価しており ます。	親投資信託受益証券 同左

※前記の情報については、EDINET(エディネット)でも閲覧することができます。

有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の記載項目		
第1 ファンドの沿革		
第2 手続等	1 申込(販売)手続等	
	2 換金(解約)手続等	
第3 管理及び運営	1 資産管理等の概要	(1) 資産の評価
		(2) 保管
		(3) 信託期間
		(4) 計算期間
		(5) その他
	2 受益者の権利等	
第4 ファンドの経理状況	1 財務諸表	(1) 貸借対照表
		(2) 損益及び剰余金計算書
		(3) 注記表
		(4) 附属明細表
	2 ファンドの現況	純資産額計算書
第5 設定及び解約の実績		

有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の記載項目は次の通りです。

「ファンドの詳細情報」の項目



EDINET (エディネット)

Electronic Disclosure for Investors' NET work の略で、「金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム」の愛称です。投資家は、EDINET を利用することにより、インターネットを通じてファンドの

有価証券報告書等を閲覧することができます。



追加型証券投資信託

りそな 東欧フロンティア株式ファンド

約 款

運用の基本方針

信託約款第23条に基づき委託者の定める運用の基本方針は、次のものとしめます。

1 基本方針

この投資信託は、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

2 運用方法

(1) 投資対象

東欧株式マザーファンド(以下「親投資信託」といいます。)の受益証券を主要投資対象とします。

(2) 投資態度

① 主として親投資信託の受益証券への投資を通じて、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

② 親投資信託の受益証券への組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。

③ 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

④ 信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、信託財産に属する資産の価格変動リスクもしくは為替変動リスクを回避するため、または信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、わが国の取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係るオプション取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引、ならびに外国の取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係るオプション取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引と類似の取引(以下「有価証券先物取引等」といいます。)を行うことができます。

⑤ 市況動向および資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

① 株式への実質投資割合には制限を設けません。

② 投資信託証券(親投資信託の受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

③ 同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。

④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

⑤ 同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であった当該社債と当該新株予約

約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

⑥ 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

⑦ 有価証券先物取引等は約款第27条の範囲で行います。

⑧ スワップ取引は約款第28条の範囲で行います。

⑨ 外国為替予約取引は約款第32条の範囲で行います。

3 収益分配方針

毎決算時(原則として2月18日および8月18日。ただし、同日が休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。

① 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

② 収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

③ 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

追加型証券投資信託 りそな 東欧フロンティア株式ファンド 約款

(信託の種類、委託者および受託者)

第1条 この信託は、証券投資信託であり、ドイチェ・アセツ・マネジメント株式会社を委託者とし、株式会社りそな銀行を受託者とします。

② この信託は、信託財産に属する財産についての對抗要件に関する事項を除き、信託法(大正11年法律第62号)の適用を受けます。

(信託事務の委託)

第2条 受託者は、信託法第26条第1項に基づく信託事務の委任として、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関(受託者の利害関係人(金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係人をいいます。以下同じ。)を含みます。)と信託契約を締結し、これを委託することができます。

② 前項における利害関係人に対する業務の委託については受益者の保護に支障を生じることがない場合に行うものとします。

(信託の目的、金額および追加信託金の限度額)
第3条 委託者は、金4,101,226,181円を受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

②委託者は、受託者と合意のうえ、金1,000億円を限度として信託金を追加することができるものとし、追加信託が行われたときは、受託者はその引き受けを証する書面を委託者に交付します。

③委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができません。

(信託期間)
第4条 この信託の期間は、信託契約締結日から第52条第1項、第52条第2項、第53条第1項、第54条第1項および第56条第2項の信託期間終了日までとします。

(受益権の取得申込みの勧誘の種類)
第5条 この信託に係る受益権の取得申込みの勧誘は金融商品取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項で定める公募により行われます。

(当初の受益者)
第6条 この信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第7条の規定により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

(受益権の分割および再分割)
第7条 委託者は、第3条第1項の規定による受益権については、4,101,226,181口に、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第8条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

②委託者は、受益権の再分割を行いません。ただし、社債、株式等の振替に関する法律が施行された場合には、受託者と協議のうえ、同法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法)
第8条 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に当該追加信託に係る受益権の口数を乗じて得た額とします。

②この信託約款において基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます。)を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除して得た金額(以下「純資産総額」といいます。)を計算日における受益権総口数で除して得た金額をいいます。なお、外貨建資産(外国通貨表示の有価証券)については、「外貨建有価証券」といいます。預金その他の資産をいいます。以下同じ。円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

③第32条に規定する予約為替の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとなります。

(信託口時の異なる受益権の内容)
第9条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

(受益権の帰属と受益証券の不発行)
第10条 この信託の受益権は、平成19年1月4日より、社債等の振替に関する法律(政令で定める日以降「社債、株式等の振替に関する法律」となった場合は読み替えるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め「社振法」といいます。以下同じ。)の規定の適用を受けることとし、同日以降に追加信託される受益権の帰属は、委託者があらかじめこの投資信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関(社振法第2条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。)及び当該振替機関の下の口座管理機関(社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)

②委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であつて、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

③委託者は、第7条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があつた場合、社振法に規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないます。

④委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができるものとし、原則としてこの信託の平成18年12月29日現在の全ての受益権(受益権につき、既に信託契約の一部解約が行われたもの、当該一部解約となる一部解約金の支払開始日が平成19年1月4日以降となるものを含みます。)を受益者が代理して平成19年1月4日に振替受入簿に記載または記録するよう申請します。ただし、保護預かりではない受益証券に係る受益権については、信託期間中において委託者が受益証券を確認した後当該申請を行なうものとします。振

替受入簿に記載または記録された受益権にかかる受益証券(当該記載または記録以降に到来する計算期間の末日にかかる収益分配金交付票を含みます。)は無効となり、当該記載または記録により振替受益権となります。また、委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請する場合において、委託者の指定する証券会社(委託者の指定する金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者をいいます。以下同じ。)および登録金融機関(委託者の指定する金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。)に当該申請の手続きを委任することができます。

(受益権の設定に係る受託者の通知)
第11条 受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行ないます。

(受益権の申込単位および価額)
第12条 委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、第7条第1項の規定により分割される受益権を、その取得申込者に対し、委託者の指定する証券会社および登録金融機関が定める単位をもって取得申込に応じることができるものとします。ただし、別に定める自動引けぞく投資約款にしたがつて契約(以下「別に定める契約」といいます。)を結んだ取得申込者に限り、1口の整数倍をもって取得申込に応じることができます。なお、委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、別に定める現地の証券取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を「取引所」といいます。取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。)等の休業日には、当該受益権の取得申込みに応じないものとします。

②前項の取得申込者は委託者の指定する証券会社または登録金融機関に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたこの信託の受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、当該取得申込の代金(第4項の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。)の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行なうことができます。

③委託者は、第1項の規定にかかわらず、受益者が別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の追加信託金の申込みについては、これを受付けるものとします。

④第1項の場合の受益権の価額は、取得申込みを受け付けた日の翌営業日の基準価額に、手数料ならびに当該手数料に

係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この信託契約締結日前の取得申込に係る受益権の価額は、1口につき1円に手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

⑤前項の手数料の額は、委託者の指定する証券会社および登録金融機関がそれぞれ定めるものとします。

⑥第4項の規定にかかわらず、受益者が別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、第42条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。

⑦委託者は、証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、第1項による受益権の取得申込みの受け付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受け付けを取り消すことができます。

第13条（削除）

（受益権の譲渡に係る記載または記録）

第14条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合においては、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとする。

②前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

③委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（受益権の譲渡の対抗要件）

第15条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

第16条（削除）

第17条（削除）

第18条（削除）

第19条（削除）

（投資の対象とする資産の種類）

第20条 この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ 有価証券

ロ テリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをい）、約款第27条、および第28条に定めるものに限ります。）

ハ 金銭債権

ニ 約束手形

イ 為替手形

（運用の指図範囲等）

第21条 この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社を委託者とし、株式会社りそな銀行を受託者とする東欧株式マザーファンド（以下「親投資信託」といいます。）の受益証券のほか、次に掲げるものとなります。

1株券または新株引受権証券

2国債証券

3地方債証券

4特別の法律により法人の発行する債券

5社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）

6資産の流動化に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）

7特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）

8協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）

9資産の流動化に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）

10資産の流動化に係る特定目的信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第13号で定めるものをいいます。）

11コマース・ペーパー

12新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券

13外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの

14投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第10号で定めるものをいいます。）

15投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。次号において同じ。）で次号で定めるもの以外のもの

16投資法人債券（金融商品取引法第2条第11号で定めるものをいいます。以下本号において同じ。）または外国投資証券で投資法人債券に類する証券

17外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）

18オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第19号で定めるものをい）、有価証券に係るものに限ります。）

19預託証券（金融商品取引法第2条第20号で定めるものをいいます。）

20外国法人が発行する譲渡性預金証書

21指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

22抵当証券（金融商品取引法第2条第16号で定めるものをいいます。）

23貸付債権信託受益証券であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

24外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、第1号の証券または証書および第13号ならびに第19号の証券または証書のうち第1号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号までの証券ならびに第16号の証券および第13号ならびに第19号の証券または証書のうち第2号から第6号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第14号および第15号の証券を以下「投資信託証券」といいます。

②委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1預金

2指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

3コール・ローン

4手形割引市場において売買される手形

5貸付債権信託受益証券であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

6 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

③ 第1項の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は信託金を主として前項各号に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

④ 委託者は、信託財産に属する投資信託証券(親投資信託の受益証券を除きます。以下同じ。)の時価総額と親投資信託の信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

⑤ 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占める投資信託証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

(委託者の自己または利害関係人等との取引)

第22条 委託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、信託財産と、受託者および受託者の利害関係人、第33条第1項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の信託財産との間で、第20条および第21条第1項および第2項に定める資産への投資を行うことができます。

② 前項の取扱いは、第26条から第28条まで、第30条、第32条、第37条および第38条における委託者の指図による取引について七同様とします。

(運用の基本方針)

第23条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行います。

(投資する株式等の範囲)

第24条 委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、証券取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび証券取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

② 前項の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目録見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投資することを指図することができます。

(同一銘柄の株式等の投資制限)

第25条 委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

② 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占める当該株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

③ 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

④ 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占める当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

(信用取引の指図範囲)

第26条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売り付けの決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行うことの指図をすることができます。

② 前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社が発行する株券について行うことができます。ものとし、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。

- 1 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券
- 2 株式分割により取得する株券
- 3 有償増資により取得する株券
- 4 売り出しにより取得する株券
- 5 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権(新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め)「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)(の新株予約権に限りません。)(の行使により取得可能な株券
- 6 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債の新株予約権(前号に定めるものを除きます。)(の行使により取得可能な株券

③ 委託者は、信託財産で保有する有価証券を信用取引の委託保証金の代用として差し入れることの指図をすることができます。ものとし、

(先物取引等の運用指図・目的・範囲)

第27条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の証券取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)(および有価証券オプシオン取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。))ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプシオン取引に含めて取り扱うものとします。(以下同じ。)

- 1 先物取引の売建およびコール・オプシオンの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券(以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。)(の時価総額(以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。)(の時価総額)の範囲内とします。
- 2 先物取引の買建およびプット・オプシオンの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額(組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額)に信託財産が限月までに受け取る組入公社債、組入外国貸付債権、信託受益証券、組入貸付債権信託受益権および組入抵当証券の利払金および償還金を加えた額を限度とし、かつ信託財産が限月までに受け取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに第21条第2項第1号から第6号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
- 3 コール・オプシオンおよびプット・オプシオンの買付けの指図は、本条で規定する全オプシオン取引に係る支払イフレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

② 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプシオン取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。

- 1 先物取引の売建およびコール・オプシオンの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の売り約と合わせてヘッジ対象とする外貨建資産(外国通貨表示の有価証券(以下「外貨建有価証券」といいます。)(、預金その他の資産をいいます。以下同じ。)(の時価総額と親投資信託の信託財産に属するヘッジ対象とする外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占めるヘッジ対象とする外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。)(との合計額の範囲内とします。
- 2 先物取引の買建およびプット・オプシオンの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の買予約と合わせて、外貨

建売住宅の買付代金等実需の範囲内とします。

3 コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、本条で規定する全オプショナル取引に係る支払プレミアム額の合計額が取引時点の保有外貨建資産の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ本条で規定する全オプショナル取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

③委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができず。

1 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受け取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに第21条第2項第1号から第6号に掲げる金融商品で運用されているものをい)、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。)の時価総額の範囲内とします。

2 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受け取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに第21条第2項第1号から第6号に掲げる金融商品で運用している額(以下本号において「金融商品運用額」といいます。)の範囲内とします。ただし、ヘッジ対象金利商品が外貨建で、信託財産の外貨建資産組入可能額(約款上の組入可能額から保有外貨建資産の時価総額を差し引いた額をいいます。以下同じ。)に信託財産が限月までに受け取る外貨建組入公社債および組入外国貸付債権信託受益証券ならびに外貨建組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等の額より少ない場合には外貨建資産組入可能額に信託財産が限月までに受け取る外貨建組入有価証券に係る利払金および償還金を加えた額を限度とします。

3 コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、本条で規定する全オプショナル取引に係る支払プレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ本条で規定する全オプショナル取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

(スワップ取引の運用指図・目的・範囲)
第28条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取

引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができず。

②スワップ取引の指図にあつては、当該取引の契約期限が、原則として第4条に規定する信託期間を超えないものとなります。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

③スワップ取引の指図にあつては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額と親投資信託の信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。))が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

④前項において親投資信託の信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、親投資信託の信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占める信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

⑤スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

⑥委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(同一銘柄の転換社債等への投資制限)

第29条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額と親投資信託の信託財産に属する当該同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

②前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占める当該同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

(有価証券の貸付の指図および範囲)

第30条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸し付けることの指図をすることができず。

1 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。

2 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額

の合計額を超えないものとします。

②前項各号に規定する限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

③委託者は、有価証券の貸付にあつて必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

(特別の場合の外貨建有価証券への投資制限)

第31条 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制限されることがあります。

(外国為替予約取引の指図)

第32条 委託者は、信託財産に属する外貨建資産(親投資信託の信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額を含みます。))について、当該外貨建資産の為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引を指図することができず。

②前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属する親投資信託の受益証券の時価総額に親投資信託の信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

(信託業務の委託等)

第33条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの(受託者の利害関係人を含みます。))を委託先として選定します。

1 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと

2 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること

3 委託される信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行なう体制が整備されていること

4 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

②受託者は、前項に定める委託先の選定にあつては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

③前2項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務(裁量性のないものに限り)を、受託者および委託者が適当と認める者(受託者の利害関係人を含みます。))に委託することができるものとします。

1 信託財産の保存に係る業務

2 信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務

3 委託者のみの指図により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務

4 受託者が行なう業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

第34条 (削除)**(混蔵寄託)**

第35条 金融機関または証券会社(金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者および外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者および外国の法令において同じ)から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマース・ペーパーは、当該金融機関または証券会社が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または証券会社の名義で混蔵寄託できます。

(信託財産の登記等および記載等の留保等)

第36条 信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

②前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をすることとします。

③信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をすることとします。その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

④動産(金銭を除きます。)については、外形上区別することができする方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

(有価証券の売却等の指図)

第37条 委託者は、信託財産に属する親投資信託の受益証券に係る信託契約の一部解約、有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第38条 委託者は、前条の規定による一部解約および有価証券の売却代金等、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

第39条 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

②一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産に保有する有価証券等の売却代金の受渡日までで、受益者への解約代金支払開始日から信託財産に保有する有価証券等の解約代金入金日までで、または受益者への解約代金支払開始日から信託財産に保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合、当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、当該有価証券等の解約代金および当該有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%以内とします。

③再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的とする借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

(借入金の利息は信託財産中より支弁します。)**(損益の帰属)**

第40条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

(受託者による資金の立替)

第41条 信託財産に属する有価証券について、借替、転換新株発行または株主割当てがある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替をすることができます。

(信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で信託終了日までにその金額を見積り得るものがあるときは、受託者がこれを立て替えて信託財産に繰り入れることができます。)

②前項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めず。

(信託の計算期間)

第42条 この信託の計算期間は、毎年2月19日から8月18日までおよび8月19日から翌年2月18日までとすることを原則とします。ただし、第一期計算期間は、平成18年5月19日から平成18年8月18日までとします。

②前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のときは、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は第4条に規定するこの信託の計算期間の終了日とします。

(信託財産に関する報告)

第43条 受託者は、毎計算期間末に損益計算を行い、信託財産に関する報告書を作成し、これを委託者に提出します。

②受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

(信託事務の諸費用および監査費用)

第44条 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用(監査費用、法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用等を含みます。)、および受益者の立替えた立替金の利息(以下「諸経費」といいます。)

は、受益者の負担とし、信託財産中から支払われます。

②委託者は、前項に定める信託事務の処理等に要する諸費用の支払いを信託財産のために、支払金額の支払いを信託財産から受けることができます。この場合、委託者は、現に信託財産のために支払った金額の支払いを受ける際に、あらかじめ受領する金額に上限を付することができるものとします。また、委託者は実際に支払う金額の支払いを受ける代わりに、かかる諸費用の金額をあらかじめ合理的に見積もったうえで、実際の費用額にかかわらず固定率または固定金額にて信託財産からその支払いを受けることもできます。

③前項において、諸費用の上限、固定率または固定金額を定める場合、委託者は信託財産の規模等を考慮して、期中にあらかじめ委託者が定めた範囲内にかかる上限、固定率または固定金額を変更することができます。

④第2項において諸費用の固定率または固定金額を定める場合、かかる諸費用の額は、第42条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に充当して計上されます。かかる諸費用は、毎計算期末または信託終了の時に信託財産から支払われます。

(信託報酬等の総額)

第45条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第42条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年10.0000分の1.88の率を乗じて得た金額とします。

②前項の信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとし、委託者と受託者との間の配分は別に定めるものとします。

③第1項の信託報酬に係る消費税等に相当する金額を信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

(収益分配)

第46条 信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1 配当金、利金、貸付有価証券に係る品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額(以下「配当等収益」といいます。)

2 諸経費、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を赤字益をもって補った後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、分配準備積立金として積み立てること

ができます。

②毎計算期間末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

(収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受託者の免責)

第47条 受託者は、収益分配金および償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権総口数で除して得た額をいいます。以下同じ。）については第48条第1項および第3項にそれぞれ規定する支払開始日まで、一部解約金については第49条第4項に規定する支払日まで、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。

②受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)

第48条 収益分配金は、毎計算期間終了日後1カ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行なわれた受益者にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者の指定する証券会社または登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、支払いします。なお、平成19年1月4日以降においても、第49条に規定する時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、当該収益分配金交付票と引き換えに受益者に支払います。

②前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として毎計算期末の翌営業日に、収益分配金が委託者の指定する証券会社および登録金融機関に交付されます。この場合、委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資に係る受益権の取得申込を行います。当該取得申込により増加した受益権は、第10条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

③償還金は、信託終了日後1カ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者の指定する証券会社または登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、支払いします。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該

償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。また、受益証券を保有している受益者に対しては、償還金は、信託終了日後1カ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引き換えに当該受益者に支払います。

④一部解約金は、第51条第1項の受益者の請求を受けた日から起算して、原則として7営業日目から当該受益者に支払います。

⑤前各項（第2項を除きます。）に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者の指定する証券会社および登録金融機関の営業所等において行うものとし、原則として受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとし、

⑥収益分配金、償還金および一部解約金に係る収益調整金は、原則として受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとし、

⑦前項に規定する収益調整金とは、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をい、原則として、追加信託のつど追加信託に係る受益権口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとし、また、前項に規定する受益者毎の信託時の受益権の価額等とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額をい、追加信託のつど追加信託に係る受益権口数により加重平均され、収益分配金のつど調整されるものとし、

(収益分配金および償還金の時効)

第49条 受益者が、収益分配金について第48条第1項に規定する支払開始日から5年間にその支払いを請求しないとき、ならびに償還金について第48条第3項に規定する支払開始日から10年間にその支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(受益権の買取り)

第50条 委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、受益者の請求があるときは、当該証券会社および登録金融機関が定める単位をもってその受益権を買取ることができ、ただし、別に定める現地の証券取引所等の休業日には、受益権の買取請求の受付は行いません。

②前項の場合、受益権の買取価額は、買取請求を受け付けた日の翌営業日の基準価額から当該買取りに関して当該買取りを行う委託者の指定する証券会社および登録金融機関に係る源泉徴収税額に相当する金額を控除した額とします。

③委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、証券取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、テロ、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、委託者と協議のうえ第1項による受益権の買取の受付を中止す

ることおよびすでに受け付けた受益権の買取の受付を取り消すことができます。

④前項により受益権の買取りの受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の買取請求を撤回できます。ただし、受益者がその買取請求を撤回しない場合には、当該受益権の買取価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に買取りを受け付けたものとして第2項の規定に準じて計算された価額とします。

(一部解約)

第51条 受益者（第50条第1項における委託者の指定する証券会社および登録金融機関を含みます。以下本条において同じ。）は、自己に帰属する受益権につき、委託者に、委託者の指定する証券会社および登録金融機関が定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。ただし、別に定める現地の証券取引所等の休業日には、一部解約の実行請求の受付は行いません。

②委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、前項の一部解約の実行の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行なうのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

③前項の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求を受け付けた日の翌営業日の基準価額とします。

④平成19年1月4日以降の信託契約の一部解約に係る一部解約の実行の請求を受益者がするときは、委託者の指定する証券会社または登録金融機関に対し、振替受益権をもって行なうものとし、また、平成19年1月4日以降に一部解約金が受益者に支払われることとなる一部解約の実行の請求で、平成19年1月4日前に行なわれる当該請求については、振替受益権となることが確実な受益証券をもって行なうものとし、

⑤委託者は、証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、テロ、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、第1項による一部解約の実行の請求の受付を中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受付を取り消すことができます。

⑥前項により一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の

一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして第3項の規定に準じて計算された価額とします。

(質権口記載又は記録の受益権の取り扱い)

第51条の2 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受け付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この約款によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

(信託契約の解約)

第52条 委託者は、第4条の規定による信託終了日前にこの信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

この場合において、委託者はあらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

②委託者は、信託契約の一部を解約することにより、受益権の口数が50億口を下回ることとなった場合には、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届け出します。

③委託者は、前2項の事項において、あらかじめ解約しようとする旨を公告し、かつその旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

④前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

⑤前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項および第2項に基づく信託契約の解約をしません。

⑥委託者は、前項に基づきこの信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

⑦前3項の規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第4項の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

第53条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

②委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更

しようとするときは、第57条の規定にしたがいします。

(委託者の登録取消等に伴う取扱)

第54条 委託者が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

②前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第57条第4項に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱)

第55条 委託者は、事業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

②委託者は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任および解任に伴う取扱)

第56条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することがあります。受託者がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を請求することができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第57条の規定にしたがい、新受託者を選任します。

②委託者は、新受託者を選任できないときは、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

(信託約款の変更)

第57条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

②委託者は、前項の変更のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。

③前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

④前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項に基づきこの信託約款の変更をしません。

⑤委託者は、前項に基づきこの信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約

款に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。

(反対者の買取請求権)

第58条 第52条に規定する信託契約の解約または前条に規定する信託約款の変更を行う場合において、第52条第4項または前条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

(公告)

第59条 委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

(信託約款に関する疑義の取扱)

第60条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定められます。

(付則)

第1条 平成18年12月29日現在の信託約款第10条、第11条、第13条(受益証券の種類)から第19条(受益証券の再交付の費用)の規定および受益権と読み替えられた受益証券に関する規定は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合には、なおその効力を有するものとします。

上記条項により信託契約を締結します。

平成18年5月19日(信託契約締結日)

委託者 ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

受託者 株式会社りそな銀行

I別に定める現地の証券取引所等

信託約款第12条第1項、第50条第1項および第51条第1項における「別に定める現地の証券取引所等」とは次のものとして、

フランクフルト証券取引所
フランクフルトの銀行



親投資信託

東欧株式マザーファンド

約 款

運用の基本方針

信託約款第15条に基づき委託者の定める運用の基本方針は、次のものとなります。

1 基本方針

この投資信託は、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

2 運用方法

(1) 投資対象

① チェコ、トルコ、ハンガリー、ポーランド、ロシア（以下「主要投資対象国」といいます。）のいずれかで上場または取引されている株式を主要投資対象とします。

② 上記①の主要投資対象国のほか、以下の国に（以下「その他投資対象国」といいます。）投資する場合があります。

イ ウクライナ、エストニア、オーストリア、カザフスタン、グルジア、スロバキア、ブルガリア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア

ロ 信託約款第16条第1項に定める者が、実質的に主要投資対象国およびその他投資対象国に該当すると判断する、主要投資対象国およびその他投資対象国以外の国。

③ 投資対象は主要投資対象国およびその他投資対象国のいずれかで上場または取引されている株式および預託証券等とします。あるいは、生産、製造、販売、サービスの提供の大半が主要投資対象国およびその他投資対象国のいずれかで行なわれている企業の株式および預託証券等とします。（生産、製造、販売、サービスの提供の大半が主要投資対象国およびその他投資対象国のいずれかで行なわれている企業の株式および預託証券等の中には、米国、英国、スイス、アイルランド、ルクセンブルグ、ドイツ等で上場または取引されている株式および預託証券等も含まれます。）

(2) 投資態度

① 株式への投資にあたっては、収益性・成長性などを総合的に勘案して選択した銘柄に投資します。

② 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

③ 信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、信託財産に属する資産の価格変動リスクもしくは為替変動リスクを回避するため、または信託財産に属する資産の効率的な運用に資するた

め、わが国の取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係るオプション取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引、ならびに外国の取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係るオプション取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引と類似の取引（以下「有価証券先物取引等」といいます。）を行うことができます。

④ 市況動向および資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

① 株式への投資割合には制限を設けません。

② 投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

③ 同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。

④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

⑤ 同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

⑥ 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

⑦ 有価証券先物取引等は約款第20条の範囲で行います。

⑧ スワップ取引は約款第21条の範囲で行います。

⑨ 外国為替予約取引は約款第25条の範囲で行います。

3 収益分配方針

信託財産から生じる利益は、信託終了時まで信託財産中に留保し分配を行いません。

東欧株式マザーファンド 約款
親投資信託

(信託の種類、委託者および受託者)

第1条 この信託は、その受益権を他の投資信託の受託者に取得させることを目的とする証券投資信託であり、ドイチエ・アセット・マネジメント株式会社を委託者とし、株式会社りそな銀行を受託者とする。

②この信託は、信託財産に属する財産についての對抗要件に関する事項を除き、信託法(大正11年法律第62号)の適用を受けず。

(信託事務の委託)

第2条 受託者は、信託法第26条第1項に基づく信託事務の委任として、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関(受託者の利害関係人(金融機関の信託業務の兼営等に関する法律にて準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係人)をいいます。以下同じ。)を含みます。)と信託契約を締結し、これを委託することができず。

②前項における利害関係人に対する業務の委託については、受益者の保護に支障を生じることがない場合に行うものとします。

(信託の目的、金額および追加信託金の限度額)

第3条 委託者は、金1,000億円を上限として受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けず。

②委託者は、受託者と合意のうえ、金5,000億円を限度として信託金を追加することができるものとし、追加信託が行われたときは、受託者はその引き受けを証する書面を委託者に交付します。

③委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができず。

(信託期間)

第4条 この信託の期間は、信託契約締結日から第41条第1項および第2項、第44条第1項、第45条第1項、第47条第2項の規定による信託期間終了日までとします。

(受益証券の取得申込みの勧誘の種類)

第5条 この信託に係る受益証券の取得申込みの勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第2号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第9項で定める適格機関投資家私募により行われます。

(受益者)

第6条 この信託の元本および収益の受益者は、この信託の受益証券を投資対象とするドイチエ・アセット・マネジメント株式会社の証券投資信託の受託者である信託業務を営む銀行とします。

(受益権の分割および再分割)

第7条 委託者は、第3条第1項の規定による受益権については、1,000億円を限度として、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第8条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

②委託者は、受託者と合意のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

(追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法)

第8条 追加信託金は、追加信託を行う日の追加信託または信託契約の一部解約(以下「一部解約」といいます。)の処理を行う前の信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます。)を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除して得た金額(以下「純資産総額」といいます。)を、追加信託または一部解約を行う前の受益権総口数で除して得た金額に、当該追加信託に係る受益権の口数を乗じた額とします。なお、外貨建資産(外国通貨表示の有価証券(以下「外貨建有価証券」といいます。)、預金その他の資産をいいます。以下同じ。)の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

②第25条に規定する予約為替の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとして計算します。

(信託日時の異なる受益権の内容)

第9条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

(受益証券の発行および種類)

第10条 委託者は、第7条の規定により分割された受益権を表示する記名式の受益証券を発行します。

②委託者が発行する受益証券は、1口の整数倍の口数を表示した受益証券とします。

③受益者は、当該受益証券を他に譲渡することができません。

(受益証券の発行についての受託者の認証)

第11条 委託者は、前条の規定により受益証券を発行するとき、その発行する受益証券がこの信託約款に適合する旨の受託者の認証を受けなければなりません。

②前項の認証は、受託者の代表取締役がその旨を受益証券に記載し記名捺印することによって行います。

(投資の対象とする資産の種類)

第12条 この信託において投資の対象とする資産の種類は、

次に掲げるものとします。

1 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)

- イ 有価証券
- ロ デリバティブ取引に係る権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをい)、約款第20条および第21条に定めるものに限りず。
- ハ 金銭債権
- ニ 約束手形

2 次に掲げる特定資産以外の資産

イ 為替手形

(運用の指図範囲等)

第13条 委託者(第16条第1項に規定する委託者から運用の指図に関する権限の委託を受けた者を含みます。以下、第15条、第17条から第23条、第25条、第30条から第32条まで同じ。)は、信託金を、主として次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図するものとし、

- 1 株券または新株引受権証券
- 2 国債証券
- 3 地方債証券
- 4 特別の法律により法人の発行する債券
- 5 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。
- 6 資産の流動化に係る特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
- 7 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
- 8 協同組織金融機関に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
- 9 資産の流動化に係る優先出資証券または新優先出資証券を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
- 10 資産の流動化に係る特定目的信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第13号で定めるものをいいます。)
- 11 コマーシャル・ペーパー
- 12 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。)
- 13 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
- 14 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引

法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。

15 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。次号において同じ。）で次号で定めるもの以外のもの

16 投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下本号において同じ。）または外国投資証券で投資法人債券に類する証券

17 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）

18 オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいいます。有価証券に係るものに限ります。）

19 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）

20 外国法人が発行する譲渡性預金証書

21 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）

22 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）

23 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

24 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、第1号の証券または証書および第13号ならびに第19号の証券または証書のうち第1号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号までの証券ならびに第16号の証券および第13号ならびに第19号の証券または証書のうち第2号から第6号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第14号および第15号の証券を以下「投資信託証券」といいます。

②委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）のみに運用することを指図することができます。

1 預金

2 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

3 コール・ローン

4 手形割引市場において売買される手形

5 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

6 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は信託金を主として前項各号に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

④委託者は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

(受託者の自己または利害関係人等との取引)

第14条 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、信託財産と、受託者および受託者の利害関係人、第26条第1項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の信託財産との間で、第12条および第13条第1項および第2項に定める資産への投資を行うことができます。

②前項の取扱いは、第19条から第21条まで、第23条、第25条、第30条および第31条における委託者の指図による取引についても同様とします。

(運用の基本方針)

第16条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行います。

(運用の権限委託)

第16条 委託者は、運用の指図に関する権限を次の者に委託します。

名称：DWSインベストメントGmbH

所在地：フランクフルト・アム・メイン、D-60032

7 マインツァー・ラント通り178-1990

②前項の委託を受けた者が受ける報酬および支弁の時期は、かかる者と委託者との間で別途合意した取り決めに基づくものとし、信託財産からの直接的な支弁は行いません。

③第1項の規定にかかわらず、第1項により委託を受けた者が、法令に違反した場合、この信託契約に違反した場合、信託財産に重大な損失を生じしめた場合等において、委託者は、運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更することができます。

(投資する株式等の範囲)

第17条 委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、証券取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号に規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。）に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび証券取引所に準ずる市場において取引さ

れている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

②前項の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で自論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投資することを指図することができます。

(同一銘柄の株式等への投資制限)

第18条 委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

②委託者は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

(信用取引の指図範囲)

第19条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売り付けの決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行うことの指図をすることができます。

②前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社が発行する株券について行うことができます。ものとし、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。

1 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券

2 株式分割により取得する株券

3 有償増資により取得する株券

4 売り出しにより取得する株券

5 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権（新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの）（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権に限りません。）の行使により取得可能な株券

6 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債の新株予約権（前号に定めるものを除きます。）の行使により取得可能な株券

③委託者は、信託財産で保有する有価証券を信用取引の委託

保証金の代用として差し入れることの指図をすることができるとします。

(先物取引等の運用指図・目的・範囲)

第20条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の証券取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)、および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)、ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引を含めて取扱うものとします。(以下同じ。)

1 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券(以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。))の時価総額の範囲内とします。

2 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額(組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額)に信託財産が限月までに受け取る組入公社債、組入外国貸付債権、信託受益証券、組入貸付債権信託受益権および組入抵当証券の利払金および償還金を加えた額を限度とし、かつ信託財産が限月までに受け取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに第13条第2項第1号から第6号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。

3 コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

②委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。

1 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の売予約と合わせてヘッジ対象とする外貨建資産(外国通貨表示の有価証券(以下「外貨建有価証券」といいます。))、預金その他の資産をいいます。(以下同じ。))の時価総額の範囲内とします。

2 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の買予約と合わせて、外貨

建 有価証券の買付代金等実需の範囲内とします。

3 コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の保有外貨建資産の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

③委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。

1 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受け取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに第13条第2項第1号から第6号に掲げる金融商品で運用されているものをいいます。以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。))の時価総額の範囲内とします。

2 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受け取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに第13条第2項第1号から第6号に掲げる金融商品で運用している額(以下本号において「金融商品運用額」といいます。))の範囲内とします。ただし、ヘッジ対象金利商品が外貨建て、信託財産の外貨建資産組入可能額(約款上の組入可能額から保有外貨建資産の時価総額を差し引いた額をいいます。以下同じ。))に信託財産が限月までに受け取る外貨建組入公社債および組入外国貸付債権信託受益証券ならびに外貨建組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等の額より少ない場合には外貨建資産組入可能額に信託財産が限月までに受け取る外貨建組入有価証券に係る利払金および償還金等を加えた額を限度とします。

3 コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

(スワップ取引の運用指図・目的・範囲)

第21条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に

資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。))を行うことの指図をすることができます。

②スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として第4条に規定する信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

③スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

④スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

⑤委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(同一銘柄の転換社債等への投資制限)

第22条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額が信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

(有価証券の貸付の指図および範囲)

第23条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸し付けの指図をすることができます。

1 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。

2 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。

②前項各号に規定する限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

③委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

(特別の場合の外貨建有価証券への投資制限)

第24条 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制限されることがあります。

(外国為替予約取引の指図)

第25条 委託者は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引を指図することができます。

(信託業務の委託等)

第26条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの(受託者の利害関係者を含みます。)を委託先として選定します。

- 1 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
- 2 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
- 3 委託される信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行なう体制が整備されていること
- 4 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

② 受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

③ 前2項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務(裁量性のないものに限ります。)を、受託者および委託者が適当と認める者(受託者の利害関係者を含みます。)に委託することができます。

- 1 信託財産の保存に係る業務
- 2 信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
- 3 委託者(第16条に定める運用の権限委託先を含みます。)のみの指図により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務
- 4 受託者が行なう業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

第27条 (削除)

(混蔵委託)

第28条 金融機関または証券会社(金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者および外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者をいいます。以下本条において同じ。)から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書または「マーシャル・ペーパー」は、当該金融機関または証券会社が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または証券会社の名義で混

蔵委託できます。

(信託財産の登記等および記載等の留保等)

第29条 信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することができます。

② 前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとします。

③ 信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をすることも、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

④ 動産(金銭を除きます。)については、外形上区別することができない方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

(有価証券の売却等の指図)

第30条 委託者は、信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第31条 委託者は、前条の規定による有価証券の売却代金等、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(損益の帰属)

第32条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

(受託者による資金の立替)

第33条 信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株主割当がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

② 信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で信託終了日までその金額を見積もり得るものがあるときは、受託者がこれを立て替えて信託財産に繰り入れることができます。

③ 前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

(信託の計算期間)

第34条 この信託の計算期間は、毎年8月19日から翌年8月18日までとするを原則とします。ただし、第一期計算期間は平成18年5月19日から平成18年8月18日までとします。

② 前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に

該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日ととき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は第4条に規定するこの信託の計算期間の終了日とします。

(信託財産に関する報告)

第35条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

② 受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

(信託事務の諸費用)

第36条 信託財産に関する相続、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立て替えた立替金の利息(以下「諸経費」といいます。)は受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

(信託報酬)

第37条 委託者および受託者は、この信託契約に関し信託報酬を収受しません。

(利益の留保)

第38条 信託財産から生じる利益は、信託終了時まで信託財産中に留保し、期中の分配を行いません。

(追加信託金および一部解約金の計理処理)

第39条 追加信託金または信託の一部解約金は、当該金額と元本に相当する金額との差額を、追加信託にあつては追加信託差金、信託の一部解約にあつては解約差金として処理します。

(信託契約の一部解約)

第40条 委託者は、受益者の請求があつた場合には、この信託契約の一部を解約します。

② 解約金は、一部解約を行う日の一部解約または追加信託の処理を行う前の信託財産の純資産総額を一部解約または追加信託を行う前の受益権総口数で除した金額に当該一部解約に係る受益権の口数を乗じた額とします。

(信託契約の解約)

第41条 委託者は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

② 委託者は、この信託の受益証券を投資対象とすることを信託約款において定めるすべての証券投資信託がこの信託を終了させることとなる場合には、この信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

③委託者は、前2項の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

④前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べらるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

⑤前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、第1項の信託契約の解約をしません。

⑥委託者は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

⑦第4項から前項までの規定は、第2項の規定に基づいてこの信託契約を解約する場合には適用しません。

(償還金の委託者への交付と支払いに関する委託者の免責)

第42条 受託者は、信託が終了したときは、償還金(信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除して得た額をいいます。以下同じ。)の全額を委託者に交付します。

②受託者は、前項の規定により委託者に償還金を交付した後、は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(償還金の支払い)

第43条 委託者は、受託者より償還金の交付を受けた後、受益証券と引換えに当該償還金を受益者に支払います。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

第44条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

②委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第48条の規定に従います。

(委託者の登録取消等に伴う取扱)

第45条 委託者が、監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

②前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第48条第4項に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱)

第46条 委託者は、事業の全部又は一部を譲渡することがあ

り、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

②委託者は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任および解任に伴う取扱)

第47条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができません。受託者がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を請求することができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第48条の規定にしたがい、新受託者を選任します。

②委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(信託約款の変更)

第48条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

②委託者は、前項の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ 変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

③前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べらるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

④前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、第1項の信託約款の変更をしません。

⑤委託者は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係る全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

(反対者の買取請求権)

第49条 第41条に規定する信託契約の解約または前条に規定する信託約款の変更を行う場合において、第41条第4項または前条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己の有する受益証券を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手続に関する事項は、第41

条第3項または前条第2項に規定する公告または書面に付記します。

(利益相反のおそれがある場合の受益者への書面の交付)

第50条 委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第13条第1項に定める書面を交付しません。

(運用報告書)

第51条 委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条に定める運用報告書を交付しません。

(公告)

第52条 委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

(信託約款に関する疑義の取扱)

第53条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めま。

上記条項により信託契約を締結します。

平成18年5月19日(信託契約締結日)

委託者 ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

受託者 株式会社りそな銀行



りそな

東欧フロンティア株式ファンド

愛称：こはく(琥珀)

RESONA East Europe Frontier stocks Fund

追加型投信 / 海外 / 株式

※課税上は株式投資信託として取扱われます。



投資信託説明書
(請求目論見書)
201011

本書は金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社



A member of
Deutsche Bank Group



1. 本書により行うりそな 東欧フロンティア株式ファンド（以下「ファンド」といいます。）の受益権の募集については、委託会社は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成22年5月18日に関東財務局長に提出しており、平成22年5月19日にその効力が発生しております。
2. 当ファンドの受益権の価額は、同ファンドに組入れられる有価証券等の値動きのほか、為替変動による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資家の皆様に帰属いたします。したがって、当ファンドは元金が保証されているものではありません。
3. 本書は、有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の内容を記載したものであり、投資家の請求により交付される投資信託説明書（請求目論見書）です。

【金融商品の販売等に関する法律に係る重要事項】

当ファンドは、主に外国の株式を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化を含む信用状況等の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、為替の変動により損失を被ることがあります。

Contents



ファンドの沿革……………1

手続等……………1

 申込(販売)手続等……………1

 換金(解約)手続等……………2

管理および運営……………3

 資産管理等の概要……………3

 受益者の権利等……………6

ファンドの経理状況……………7

 財務諸表……………10

 ファンドの現況……………22

設定および解約の実績……………23



ファンドの沿革

平成18年5月19日 信託契約締結、ファンドの設定、運用開始

手続等

申込(販売)手続等

①取得申込みの受付は、原則として販売会社の営業日(ただし、法兰克福証券取引所の休業日または法兰克福の銀行の休業日に該当する日を除きます。)に取得申込みが行われ、かつ、当該取得申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分として取扱います。

当ファンドは収益分配金の受取方法により、収益分配時に、収益分配金を受け取る「一般コース」と、収益分配金が税引き後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」の2つのコースがあります。

当ファンドの取得申込者は、取得申込みをする際に、「一般コース」か「自動けいぞく投資コース」か、どちらかのコースを申し出るものとします。ただし、申込取扱場所によっては、どちらか一方のみの取

扱いとなる場合があります。

「自動けいぞく投資コース」を選択する場合、取得申込者は、当該販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」にしたがって契約*(以下「自動けいぞく投資契約」といいます。)を締結します。なお、収益分配金を再投資せず受取りを希望される場合は、販売会社によっては再投資の停止を申し出ることができます。詳しくは、販売会社にお問合せください。

※販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を用いることがあり、この場合、該当する別の名称に読み替えるものとします。

②当ファンドの取得申込者は、販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとなります。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

③申込価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。ただし、収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日(決算日)の基準価額とします。基準価額については、販売会社または委託会社の前記照会先にお問合せください。

④申込単位は、販売会社が定める単位とします。ただし、収益分配金を再投資する場合は1口単位とします。申込単位の詳細については、販

委託会社(ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社)

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>

フリーダイヤル

0120-442-785

(受付時間: 営業日の午前9時から午後5時まで)

売会社または委託会社の前記照会先にお問合せください。

⑤ 申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.15%（税抜3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料の詳細については、販売会社または委託会社の前記照会先にお問合せください。

収益分配金を再投資する場合の申込手数料は無手数料とします。

⑥ 申込代金については、原則として販売会社が定める日までに申込みの販売会社に支払うものとします。詳細については、販売会社にお問合せください。

⑦ 取得申込みの受け付けの中止、すでに受け付けた取得申込みの受け付けの取消し等

a. 信託財産の効率的な運用に資するため必要があると委託会社が判断する場合、委託会社は、受益権の取得申込みの受け付けを制限または停止することができます。

b. 委託会社は、証券取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。）等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、受益権の取得申込みの受け付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受け付けを取り消すことができます。

換金（解約）手続等

① 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に一部解約の実行の請求をすることができます。

一部解約の実行の請求の受け付けは、原則として販売会社の営業日（ただし、バンクフルト証券取引所の休業日またはバンクフルトの銀行の休業日に該当する日を除きます。）に一部解約の実行の請求が行われ、かつ、当該請求に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受け付けとして取扱います。

② 当ファンドの一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

③ 解約価額は、一部解約の実行の請求を受けた日の翌営業日の基準価額とします。

基準価額については、販売会社または委託会社の前記照会先にお問合せください。

④ お手取額は、解約価額から解約に係る所定の税金を差し引いた額となります。

⑤ 解約単位は、販売会社が定める単位とします。解約単位の詳細については、販売会社または委託会社の前記照会先にお問合せください。

⑥ 解約代金は、原則として一部解約の実行の請求を受けた日から起算して7営業日目から販売会社の本・支店、営業所等にて支払われます。

⑦ 委託会社は、証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消すことができます。その場合には、受益者は当該受付中



止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できません。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとして前記③に準じて計算された価額とします。

(注)前記のほか、販売会社によっては受益権を買い取る場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せください。

管理および運営

資産管理等の概要

■資産の評価

〈基準価額の計算方法等について〉

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

受益権1口当たりの純資産額が基準価額です。なお、便宜上、1万口当たりに換算した価額で表示されることがあります。

基準価額は、原則として委託会社の営業日に日々算出されます。基準価額については、販売会社または委託会社の下記照会先にお問合せください。また、原則として日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄に、前日付の基準価額が掲載されます。（略称（愛称）：こはく）

委託会社（ドイツ・アセット・マネジメント株式会社）

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>

フリーダイヤル 0120-442-785

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

運用資産の評価基準および評価方法

マザーファンド	株式	公社債等	外貨建資産	外国為替 予約取引
基準価額にて評価します。	原則として、証券取引所における計算日の最終相場(外国で取引されているものについては、原則として、計算日に知りうる直近の日の最終相場)で評価します。	法令および社団法人投資信託協会規則にしたがって、時価評価します。	原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値により評価します。	原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値により評価します。

■ 保管

当ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まりますので、保管に関する該当事項はありません。

■ 信託期間

信託契約締結日(平成18年5月19日)から無期限とします。

■ 計算期間

- ① 当ファンドの計算期間は、毎年2月19日から8月18日までおよび8月19日から翌年2月18日までを原則とします。
- ② 前記①にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとしてします。

■ その他

① 信託の終了

a 委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、受益権の口数が50億口を下回るものとなったとき、信託終了前にこの信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信

託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

b 委託会社は、前記aの事項について、あらかじめ解約しようとする旨を公告し、かつその旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

c 前記bの公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

d 前記cの一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、前記aの信託契約の解約をしません。

e 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

f 前記cからeまでの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であつて、前記cの一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

② 信託約款の変更

a 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

b 委託会社は、前記aの変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。



ん。

c 前記bの公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

d 前記cの一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記aの信託約款の変更をしません。

e 委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

③信託契約に関する監督官庁の命令

a 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

b 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前記②の規定にしたがいます。

④委託会社の登録取消し等に伴う取扱い

a 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

b 前記aの規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、前記②dに該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

⑤運用報告書

委託会社は、法令に基づき、当該信託財産の計算期間の末日毎および信託終了時に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成し、これを販売会社を通じて当該信託財産に係る知られたる受益者に対して交付します。

⑥関係法人との契約の更改等

a 投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約当初の契約の有効期間は1年間とします。ただし、期間満了3ヵ月

前までに、委託会社および販売会社いずれからも、何らの意思表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。また、委託会社または販売会社は、他方に対して書面による通知を3ヵ月前になすことにより当該契約を解約することができます。

b 投資顧問契約

契約の期間については、特段の定めはありません。ただし、90日以上前の書面による相手方への通知により、どちらの当事者も投資顧問契約を終了することができます。終了の通知に際し、投資顧問会社は委託会社により別段指示されない限り、終了日まで運用の指図を続けるものとします。

⑦委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

a 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

b 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

⑧受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

a 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、前記②の規定にしたがい、新受託会社を選任します。

b 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

⑨公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

⑩信託約款に関する疑義の取扱い

信託約款の解釈について疑義が生じたときは、委託会社と受託会社との協議により定めめます。

⑪再信託

受託会社は、当ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本ト

ラスト・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

受益者の権利等

受益者の有する主な権利は次の通りです。

① 収益分配金に対する請求権

受益者は、委託会社が支払いを決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、原則として決算日から起算して5営業日までに、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払いを開始します。「自動けいぞく投資」コースをお申込みの場合は、収益分配金は税引き後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

受益者が収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属するものとします。

② 償還金に対する請求権

受益者は、当ファンドの償還金を持分に応じて請求する権利を有します。

償還金は、原則として信託終了日(信託終了日が休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までに、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取

得申込者として)に支払いを開始します。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属するものとします。

③ 受益権の一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、販売会社を通じて、販売会社が定める単位をもって一部解約を委託会社に請求する権利を有します。一部解約金は、原則として一部解約の実行の請求を受けた日から起算して7営業日目に受益者に支払われます。

④ 反対者の買取請求権

前記「資産管理等の概要」その他「①信託の終了」または「②信託約款の変更」のうち、その内容が重大な変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手続きに関する事項は、前記「資産管理等の概要」その他「①信託の終了」または「②信託約款の変更」に規定する公告または書面に付記します。

⑤ 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。



1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、第8期計算期間（平成21年8月19日から平成22年2月18日まで）については改正前の、第9期計算期間（平成22年2月19日から平成22年8月18日まで）については改正後の「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドの計算期間は6ヶ月であるため、財務諸表は6ヶ月毎に作成しております。

3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第8期計算期間（平成21年8月19日から平成22年2月18日まで）及び第9期計算期間（平成22年2月19日から平成22年8月18日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

ファンドの 経理状況




独立監査人の監査報告書

平成22年3月17日

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士
業務執行社員

鶴田 光夫 

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているりそな 東欧フロンティア株式ファンドの平成21年8月19日から平成22年2月18日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、りそな 東欧フロンティア株式ファンドの平成22年2月18日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上



独立監査人の監査報告書

平成22年9月15日

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士
業務執行社員

鶴田 央 彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているりそな 東欧フロンティア株式ファンドの平成22年2月19日から平成22年8月18日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、りそな 東欧フロンティア株式ファンドの平成22年8月18日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

りそな 東欧フロンティア株式ファンド

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第8期計算期間 (平成22年2月18日現在)	第9期計算期間 (平成22年8月18日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	203,590	19,390
親投資信託受益証券	4,379,943,265	3,966,756,453
流動資産合計	4,380,146,855	3,966,775,843
資産合計	4,380,146,855	3,966,775,843
負債の部		
流動負債		
未払解約金	5,091,162	11,851,629
未払受託者報酬	1,803,437	1,763,327
未払委託者報酬	40,577,361	39,674,809
その他未払費用	2,146,892	2,099,138
流動負債合計	49,618,852	55,388,903
負債合計	49,618,852	55,388,903
純資産の部		
元本等		
元本	8,536,982,783	8,037,223,740
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金 (△)	△4,206,454,780	△4,125,836,800
(分配準備積立金)	111,169,644	101,645,244
元本等合計	4,330,528,003	3,911,386,940
純資産合計	4,330,528,003	3,911,386,940
負債純資産合計	4,380,146,855	3,966,775,843

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第8期計算期間 (自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	第9期計算期間 (自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
営業収益		
受取利息	343	134
有価証券売買等損益	1,020,135,569	△117,227,530
営業収益合計	1,020,135,912	△117,227,396
営業費用		
受託者報酬	1,803,437	1,763,327
委託者報酬	40,577,361	39,674,809
その他費用	2,146,892	2,099,138
営業費用合計	44,527,690	43,537,274
営業利益又は営業損失(△)	975,608,222	△160,764,670
経常利益又は経常損失(△)	975,608,222	△160,764,670
当期純利益又は当期純損失(△)	975,608,222	△160,764,670
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	87,614,273	6,674,321
期首剰余金又は期首欠損金(△)	△5,496,365,012	△4,206,454,780
剰余金増加額又は欠損金減少額	592,410,131	365,508,822
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	592,410,131	365,508,822
剰余金減少額又は欠損金増加額	190,493,848	117,451,851
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	190,493,848	117,451,851
分配金	—	—
期末剰余金又は期末欠損金(△)	△4,206,454,780	△4,125,836,800

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第8期計算期間 (自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	第9期計算期間 (自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託 受益証券の基準価額で評価しており ます。	親投資信託受益証券 同左

(貸借対照表に関する注記)

項目	第8期計算期間 (平成22年2月18日現在)	第9期計算期間 (平成22年8月18日現在)
1. 計算期間末日における受益権の 総数	8,536,982,783口	8,037,223,740口
2. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総 額を下回っており、その差額は 4,206,454,780円です。	貸借対照表上の純資産額が元本総 額を下回っており、その差額は 4,125,836,800円です。
3. 計算期間末日における1口当 たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.5073円 (5,073円)	0.4867円 (4,867円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第8期計算期間 (自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	第9期計算期間 (自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
1. 信託財産の運用の指図に係る 権限の全部又は一部を委託する ために要する費用として委託者 報酬の中から支弁している額	純資産総額に対して年率0.3%以内 の額	同左
2. 分配金の計算方法	計算期間末における配当等収益 (31,180,737円)、収益調整金 (12,822,824円)、分配準備積立金 (79,988,907円)より、分配対象収益 は、123,992,468円(1万口当たり145 円)ですが、今期は分配を 行っておりません。	計算期間末における収益調整金 (15,332,056円)、分配準備積立金 (101,645,244円)より、分配対象収益 は、116,977,300円(1万口当たり145 円)ですが、今期は分配を 行っておりません。

(金融商品に関する注記)

I 金融商品の状況に関する事項

項目	第8期計算期間 (自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	第9期計算期間 (自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
1. 金融商品に対する取組方針	—	当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	—	当ファンド及び主要投資対象である親投資信託が保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務であり、その詳細は貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。当該金融商品には、性質に応じてそれぞれ市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等)、流動性リスク、信用リスク等があります。



3. 金融商品に係るリスク管理体制	-	<p>委託会社では2つの検証機能を有しています。1つは運用評価会議で、ここではパフォーマンス分析及び定量的リスク分析が行われます。もう1つはインベストメント・コントロール・コミッティーで、ここでは運用部、業務部、コンプライアンス部から市場リスク、流動性リスク、信用リスク、運用ガイドライン・法令等遵守状況など様々なリスク管理状況が報告され、検証が行われます。このコミッティーで議論された内容は、取締役会から一部権限を委譲されたエグゼクティブ・コミッティーに報告され、委託会社として必要な対策を指示する体制がとられています。</p> <p>運用部ではこうしたリスク管理の結果も考慮し、次の投資戦略を決定し、日々の運用業務を行っております。</p>
-------------------	---	--

II 金融商品の時価等に関する事項

項目	第8期計算期間 (平成22年2月18日現在)	第9期計算期間 (平成22年8月18日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	-	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	-	<p>(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>(2) 売買目的有価証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	-	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第8期計算期間(平成22年2月18日現在)

種類	貸借対照表計上額(円)	計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	4,379,943,265	956,552,524
合計	4,379,943,265	956,552,524

第9期計算期間(平成22年8月18日現在)

種類	計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	△120,594,543
合計	△120,594,543

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	第8期計算期間 (平成22年2月18日現在)	第9期計算期間 (平成22年8月18日現在)
元本の推移		
期首元本額	9,149,806,908円	8,536,982,783円
期中追加設定元本額	375,879,191円	242,402,050円
期中一部解約元本額	988,703,316円	742,161,093円

(4) 【附属明細表】

①有価証券明細表

(ア)株式

該当事項はありません。

(イ)株式以外の有価証券

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	東欧株式マザーファンド	5,359,757,403	3,966,756,453	
合計		5,359,757,403	3,966,756,453	

②信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

③デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考情報)

当ファンドは「東欧株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券です。

なお、当ファンドの計算期間末日における同親投資信託の状況は次の通りです。

「東欧株式マザーファンド」の状況
以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

(1) 貸借対照表

区分	(平成22年2月18日現在)	(平成22年8月18日現在)
	金額 (円)	金額 (円)
資産の部		
流動資産		
預金	905,916,613	1,868,453,948
コール・ローン	276,219,436	184,908,132
株式	35,226,167,432	29,370,099,082
社債券	740,444,965	570,124,217
派生商品評価勘定	—	922,580
未取配当金	—	163,767,653
未取利息	529	354
流動資産合計	37,148,748,975	32,158,275,966
資産合計	37,148,748,975	32,158,275,966
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	1,960,110	744,909
流動負債合計	1,960,110	744,909
負債合計	1,960,110	744,909
純資産の部		
元本等		
元本	48,665,513,896	43,451,519,509
剰余金		
剰余金又は欠損金 (△)	△11,518,725,031	△11,293,988,452
元本等合計	37,146,788,865	32,157,531,057
純資産合計	37,146,788,865	32,157,531,057
負債純資産合計	37,148,748,975	32,158,275,966

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	(自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	(自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式、社債券につきましては移動平均法に基づき、以下の通り原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における計算期間末日の最終相場（外貨建証券等の場合は計算期間末日において知りうる直近の最終相場）で評価しております。</p> <p>計算期間の末日に当該金融商品取引所等の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所等における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でないと認められた場合は、当該金融商品取引所等における計算期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 当該有価証券については、日本証券業協会の公社債店頭売買参考統計値、金融機関の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>	<p>株式、社債券につきましては移動平均法に基づき、以下の通り原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 同左</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 同左</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 同左</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約の評価は、個別法に基づき、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物相場の仲値によって計算しております。ただし、為替予約のうち対顧客先物相場が発表されていない通貨については、対顧客相場の仲値によって計算しております。</p>	同左
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に基づいております。</p>	<p>外貨建取引等の処理基準 同左</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(平成22年2月18日現在)	(平成22年8月18日現在)
1. 受益権の総数	48,665,513,896口	43,451,519,509口
2. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は11,518,725,031円です。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は11,293,988,452円です。
3. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.7633円 (7,633円)	0.7401円 (7,401円)



(金融商品に関する注記)

I 金融商品の状況に関する事項

項目	(自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	(自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
1. 金融商品に対する取組方針	—	当親投資信託は証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	—	当親投資信託が保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務であり、その詳細は貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。当該金融商品には、性質に応じてそれぞれ市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等)、流動性リスク、信用リスク等があります。 当親投資信託が行うデリバティブ取引については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で利用しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	—	委託会社では2つの検証機能を有しています。1つは運用評価会議で、ここではパフォーマンス分析及び定量的リスク分析が行われます。もう1つはインベストメント・コントロール・コミッティーで、ここでは運用部、業務部、コンプライアンス部から市場リスク、流動性リスク、信用リスク、委託先リスク、運用ガイドライン・法令等遵守状況など様々なリスク管理状況が報告され、検証が行われます。このコミッティーで議論された内容は、取締役会から一部権限を委譲されたエグゼクティブ・コミッティーに報告され、委託会社として必要な対策を指示する体制がとられています。 運用部ではこうしたリスク管理の結果も考慮し、次の投資戦略を決定し、日々の運用委託先管理業務を行っております。

II 金融商品の時価等に関する事項

項目	(平成22年2月18日現在)	(平成22年8月18日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	—	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	—	(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間で決済されることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 (2) 売買目的有価証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 (3) デリバティブ取引 (デリバティブ取引に関する注記)に記載しております。

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	-	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等はあくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。
----------------------------	---	---

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(平成22年2月18日現在)

種類	貸借対照表計上額(円)	計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
株式	35,226,167,432	8,440,190,914
社債券	740,444,965	146,435,953
合計	35,966,612,397	8,586,626,867

(注)「計算期間」とは当親投資信託の計算期間の期首日から本書における開示対象ファンドの期末日までの期間(平成21年8月19日から平成22年2月18日まで)を指しております。

(平成22年8月18日現在)

種類	計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
株式	7,128,027,041
社債券	△129,165,876
合計	6,998,861,165

(注)「計算期間」とは当親投資信託の計算期間の期首日から本書における開示対象ファンドの期末日までの期間(平成21年8月19日から平成22年8月18日まで)を指しております。

(デリバティブ取引に関する注記)

I 取引の状況に関する事項

項目	(自 平成21年8月19日 至 平成22年2月18日)	(自 平成22年2月19日 至 平成22年8月18日)
1. 取引の内容	当親投資信託の利用しているデリバティブ取引は、為替予約であります。	-
2. 取引に対する取組方針	デリバティブ取引は、将来の為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。	-
3. 取引の利用目的	デリバティブ取引は、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で利用しております。	-
4. 取引に係るリスクの内容	為替予約取引に係る主要なリスクは、為替相場の変動によるリスクであります。	-
5. 取引に係るリスク管理体制	デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、運用部が行っております。	-
6. 取引の時価等に関する事項についての補足説明	取引の時価に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	-



II 取引の時価等に関する事項 (通貨関連)

区分	種類	(平成22年2月18日現在)			
		契約額等		時価(円)	評価損益(円)
		(円)	うち1年超(円)		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 アメリカドル	256,233,062	—	258,193,172	△1,960,110
	合計	256,233,062	—	258,193,172	△1,960,110

区分	種類	(平成22年8月18日現在)			
		契約額等		時価(円)	評価損益(円)
		(円)	うち1年超(円)		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 アメリカドル	362,406,976	—	362,229,305	177,671
	合計	362,406,976	—	362,229,305	177,671

(注1) 時価の算定方法

- 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。
 - 同計算期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」という。）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。
 - 同計算期間末日において当該日の対顧客先物相場が発表されていない場合は、以下の方法によっております。
 - 同計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
 - 同計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。
- 同計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、同計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

(注2) デリバティブ取引にヘッジ会計は適用されておりません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	(平成22年2月18日現在)	(平成22年8月18日現在)
1. 元本の推移		
期首元本額	53,294,229,265円	48,665,513,896円
期中追加設定元本額	3,790,716,112円	3,731,759,709円
期中一部解約元本額	8,419,431,481円	8,945,754,096円
期末元本額	48,665,513,896円	43,451,519,509円
2. 元本の内訳		
りそな 東欧フロンティア株式ファンド	5,738,167,517円	5,359,757,403円
ドイチェ・ロシア東欧株式ファンド	42,927,346,379円	38,091,762,106円

(3) 附属明細表

①有価証券明細表

(ア)株式

通貨	銘柄	株数	評価額		備考
			単価	金額	
アメリカドル	GAZPROM RTS CLASSIC	190,000	5.39	1,024,100.00	
	LUKOIL-SPON ADR	490,000	54.20	26,558,000.00	
	NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S	160,000	74.70	11,952,000.00	
	OAO GAZPROM SPON ADR	1,340,000	21.48	28,783,200.00	
	OAO ROSNEFT OIL CO-GDR	2,250,000	6.67	15,007,500.00	
	OJSC TNK-BP HOLDING	2,000,000	2.08	4,160,000.00	
	SURGUTNEFTEGAZ-SP ADR	170,000	9.25	1,572,500.00	
	SURGUTNEFTEGAZ-SP ADR PREF	2,235,000	4.27	9,543,450.00	
	TATNEFT-SPONSORED REGS GDR	149,999	31.74	4,760,968.26	
	TMK-GDR REG S	220,000	16.60	3,652,000.00	
	JSC MMC NORILSK NICKEL-ADR	900,000	17.10	15,390,000.00	
	LSR GROUP OJSC-GDR REGS	579,420	8.55	4,954,041.00	
	MECHEL OAO-ADR	270,000	23.01	6,212,700.00	
	MMC NORILSK NICKEL-\$	20,047	170.00	3,407,990.00	
	RASPADSKAYA-CLS	950,000	5.00	4,750,000.00	
	SEVERSTAL-GDR REG S	201,155	12.15	2,444,033.25	
	SHALKIYAZINC-GDR	140,000	0.10	14,000.00	
	AEROFLOT-RUSSIAN AIRLINE-CLS	1,950,000	2.01	3,919,500.00	
	GLOBALTRA-SPONS GDR REG S	357,927	14.10	5,046,770.70	
	MAGNIT OJSC-SPON GDR REGS	200,000	21.85	4,370,000.00	
	PROTEK	110,000	3.77	414,700.00	
	SBERBANK-CLS	14,250,000	2.68	38,190,000.00	
	VTB BANK OJSC-GDR-REG S	400,000	5.39	2,156,000.00	
	AFI DEVELOPMENT PLC - B SHS	1,250,000	0.87	1,090,625.00	
	AFI DEVELOPMENT-GDR REGS	1,250,000	0.87	1,090,625.00	
	RGI INTERNATIONAL LTD	400,000	1.97	790,000.00	
	MOBILE TELESYSTEMS-SP ADR	812,500	22.21	18,045,625.00	
	SISTEMA JSFC-REG S SPONS GDR	250,000	26.82	6,705,000.00	
	VIMPELCOM LTD-SPON ADR	600,000	15.50	9,300,000.00	
	RUSHYDRO-SP ADR REG S	1,500,000	5.50	8,250,000.00	
小計				243,555,328.21 (20,823,980,561)	
イギリスポンド	EURASIAN NATURAL RESOURCES	150,000	9.68	1,452,000.00	
	HIGHLAND GOLD MINING LTD	1,250,000	1.25	1,568,750.00	
	PETROPAVLOVSK PLC	140,000	11.06	1,548,400.00	
	KDD GROUP NV	1,200,000	0.28	336,000.00	
小計				4,905,150.00 (652,630,207)	
トルコリラ	KOZA ALTIN ISLETMELERI AS	203,333	13.60	2,765,328.80	
	ENKA INSAAT VE SANAYI AS	1,008,333	5.55	5,596,248.15	
	TEKFEN HOLDING AS	1,750,000	5.45	9,537,500.00	
	TAV HAVALIMANLARI HOLDING AS	750,000	6.70	5,025,000.00	
	TOFAS TURK OTOMOBIL FABRIKA	450,000	5.70	2,565,000.00	
	TURK SISE VE CAM FABRIKALARI	1,650,000	1.97	3,250,500.00	
	ASYA KATILIM BANKASI AS	1,550,000	3.46	5,363,000.00	
	SEKERBANK	1,875,000	1.60	3,000,000.00	
	TURKIYE GARANTI BANKASI	2,650,000	7.40	19,610,000.00	
	TURKIYE HALK BANKASI	400,000	12.50	5,000,000.00	
	TURKIYE IS BANKASI-C	2,400,000	5.65	13,560,000.00	
	YAPI VE KREDI BANKASI	1,100,000	4.46	4,906,000.00	
	HACI OMER SABANCI HOLDING	900,000	6.85	6,165,000.00	
	ANADOLU HAYAT EMEKLILIK	650,000	4.62	3,003,000.00	
	TURK TELEKOMUNIKASYON AS	1,000,000	6.05	6,050,000.00	
	小計				95,396,576.95 (5,429,019,194)
チェココルナ	NEW WORLD RESOURCES NV-A	150,000	227.00	34,050,000.00	
	CEZ AS	100,000	867.00	86,700,000.00	
小計				120,750,000.00 (536,130,000)	



ハンガリーフォ リント	MOL HUNGARIAN OIL AND GAS NYRT	20,000	20,700.00	414,000,000.00	
	OTP BANK RT	125,000	5,120.00	640,000,000.00	
小計				1,054,000,000.00 (415,697,600)	
ポーランドズロ チ	GRUPA LOTOS SA	200,000	31.80	6,360,000.00	
	KGHM POLSKA MIEDZ S.A.	160,000	108.70	17,392,000.00	
	BANK PEKAO SA	65,000	166.00	10,790,000.00	
	PKO BANK POLSKI SA	500,000	39.70	19,850,000.00	
小計				54,392,000.00 (1,512,641,520)	
合計				29,370,099,082 (29,370,099,082)	

(イ) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
社債券	アメリカドル	EMIS FINANCE BV	2,500.00	325,000.00	
		MORGAN STANLEY BV OTP BANK 03/04/2011	265,000.00	6,343,119.50	
	計			6,668,119.50 (570,124,217)	
	小計			570,124,217 (570,124,217)	
合計				570,124,217 (570,124,217)	

(注) 1. 通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額であります。

2. 小計・合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	組入社債券 時価比率	合計金額に 対する比率
アメリカドル	株式 30 銘柄	64.8%	—	71.5%
	社債券 2 銘柄	—	1.8%	
イギリスポンド	株式 4 銘柄	2.0%	—	2.2%
トルコリラ	株式 15 銘柄	16.9%	—	18.1%
チェココルナ	株式 2 銘柄	1.7%	—	1.8%
ハンガリーフォ リント	株式 2 銘柄	1.3%	—	1.4%
ポーランドズロ チ	株式 4 銘柄	4.7%	—	5.0%

②信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

③デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

(2) 注記表(デリバティブ取引に関する注記) II 取引の時価等に関する事項で記載しております。

【純資産額計算書】

「りそな 東欧フロンティア株式ファンド」

(平成22年 9月30日現在)

I 資産総額	3,914,220,321円
II 負債総額	34,399,070円
III 純資産総額 (I - II)	3,879,821,251円
IV 発行済数量	7,784,669,830口
V 1 単位当たり純資産額 (III / IV)	0.4984円

(参考情報)

「東欧株式マザーファンド」

(平成22年 9月30日現在)

I 資産総額	31,490,910,564円
II 負債総額	137,203円
III 純資産総額 (I - II)	31,490,773,361円
IV 発行済数量	41,458,054,192口
V 1 単位当たり純資産額 (III / IV)	0.7596円



下記計算期間中の設定および解約の実績は次の通りです。

計算期間	設定数量(口)	解約数量(口)
第 1期 (平成18年 5月19日～平成18年 8月18日)	4,596,737,819	277,684,510
第 2期 (平成18年 8月19日～平成19年 2月19日)	2,312,376,183	1,935,660,860
第 3期 (平成19年 2月20日～平成19年 8月20日)	4,857,103,426	1,551,871,421
第 4期 (平成19年 8月21日～平成20年 2月18日)	1,802,485,230	1,893,443,029
第 5期 (平成20年 2月19日～平成20年 8月18日)	1,351,520,419	414,567,211
第 6期 (平成20年 8月19日～平成21年 2月18日)	568,740,548	705,263,687
第 7期 (平成21年 2月19日～平成21年 8月18日)	890,536,242	451,202,241
第 8期 (平成21年 8月19日～平成22年 2月18日)	375,879,191	988,703,316
第 9期 (平成22年 2月19日～平成22年 8月18日)	242,402,050	742,161,093

(注) 設定数量には、当初設定数量を含みます。

設定および解約 の実績





